

広域営農団地農道整備事業九十九里地区 埋蔵文化財調査報告書

—松尾町大宮神社低地遺跡—
—成東町小松遺跡—
—横芝町新島旧三島本郷遺跡—

平成16年3月

千葉県農林水産部 東金土地改良事務所
財団法人 千葉県文化財センター

広域営農団地農道整備事業九十九里地区 埋蔵文化財調査報告書

まつお　おおみやじんじやでいち
－松尾町大宮神社低地遺跡－
なるとう　こまつ
－成東町小松遺跡－
よこしば　にいじまきゅうみしまほんごう
－横芝町新島旧三島本郷遺跡－



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、千葉県文化財センター調査報告第475集として、千葉県農林水産部東金土地改良事務所の広域農道整備事業に伴って実施した松尾町大宮神社低地遺跡・成東町小松遺跡・横芝町新島旧三島本郷遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、特に小松遺跡から中・近世の陶磁器や石塔・板碑片が多く出土し、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成16年3月

財団法人千葉県文化財センター

理事長 清水 新次

凡　例

- 1 本書は、千葉県農林水産部 東金土地改良事務所による広域営農団地農道整備事業九十九里地区に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、以下の3遺跡である。
 - ・大宮神社低地遺跡（遺跡コード 407-013） 千葉県山武郡松尾町折戸字小町751ほか
 - ・小松遺跡（遺跡コード 404-007） 千葉県山武郡成東町小松字南台之下79-1ほか
 - ・新島旧三島本郷遺跡（遺跡コード 408-012・013） 千葉県山武郡横芝町新島字上人塚5178ほか
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県農林水産部 東金土地改良事務所の委託を受け、財團法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の組織、担当者及び実施期間は、第1章に記載した。
- 5 本書の執筆は、上席研究員 大槻一実が第1章の一部、その他を研究員 黒沢 崇が担当した。なお、中・近世の遺物については上席研究員 鳴田浩司の協力を得た。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、千葉県農林水産部、東金土地改良事務所、松尾町教育委員会、成東町教育委員会、横芝町教育委員会ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
 - 第1図 国土地理院発行 1/50,000地形図「東金」(NI-54-19-11)・「木戸」(NI-54-19-7)
 - 第3図 空港南広域都市計画図（横芝町・松尾町）1/2,500地形図（IX-LF 44-3・4）
 - 第11図 成東町平面図17 1/2,500地形図（IX-LF 54-1）
 - 第23図 空港南広域都市計画図（横芝町・松尾町）1/2,500地形図（IX-LF 35-3, 45-1）
- 8 周辺航空写真は、京葉測量株式会社による昭和44年に撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。また、図面の座標表示は日本測地系である。
- 10 本書で使用したスクリーントーンの用例は下記のとおりである。



黒泥質砂質土



貝層



耕作痕



畦畔状部分

本文目次

第1章 はじめ	1
第1節 調査の概要	1
第2節 遺跡の位置と環境	2
第2章 大宮神社低地遺跡	5
第1節 概要	5
第2節 遺構	7
第3節 遺物	13
第3章 小松遺跡	17
第1節 概要	17
第2節 遺構	19
第3節 遺物	23
第4章 新島旧三島本郷遺跡	34
第1節 概要	34
第2節 遺構	36
第3節 遺物	36
第5章 まとめ	38
報告書抄録	卷末

挿図目次

第1図 周辺の遺跡	3	第11図 周辺地形図 (S=1/5,000)	17
大宮神社低地遺跡		第12図 調査区配置図 (S=1/1,500)	18
第2図 調査区配置図 (S=1/4,000)	5	第13図 A・B区	20
第3図 周辺地形図 (S=1/5,000)	6	第14図 C・D・E区	21
第4図 A区	8	第15図 F・G区	22
第5図 B区	9	第16図 出土遺物 (1)	24
第6図 C・D区	10	第17図 出土遺物 (2)	25
第7図 E区	11	第18図 出土遺物 (3)	26
第8図 E・F・G区	12	第19図 出土遺物 (4)	27
第9図 H区	14	第20図 出土遺物 (5)	30
第10図 出土遺物	14	第21図 出土遺物 (6)	31
小松遺跡		第22図 錢貨	33

新島旧三島本郷遺跡	第24図 調査区配置図	35
第23図 周辺地形図 (S=1/5,000)	34 第25図 遺構と001号出土遺物	37

表 目 次

第1表 周辺の遺跡一覧表	3	第5表 陶磁器点数表	27
第2表 遺構一覧表	15・16	第6表 陶磁器観察表	28・29
第3表 銭貨計測表	16	第7表 石製品計測表	32
第4表 遺構一覧表	18	第8表 銭貨計測表	33

図版目次

図版1 周辺航空写真 (S=1/20,000)	図版13 小松遺跡 遺物 (1)
図版2 大宮神社低地遺跡 遺構 (1)	図版14 小松遺跡 遺物 (2)
図版3 大宮神社低地遺跡 遺構 (2)	図版15 小松遺跡 遺物 (3)
図版4 大宮神社低地遺跡 遺構 (3)	図版16 小松遺跡 遺物 (4)
図版5 小松遺跡 遺構 (1)	図版17 小松遺跡 遺物 (5)
図版6 小松遺跡 遺構 (2)	図版18 小松遺跡 遺物 (6)
図版7 小松遺跡 遺構 (3)	図版19 小松遺跡 遺物 (7)
図版8 小松遺跡 遺構 (4)	図版20 小松遺跡 遺物 (8)
図版9 新島旧三島本郷遺跡 遺構 (1)	図版21 小松遺跡 遺物 (9)
図版10 新島旧三島本郷遺跡 遺構 (2)	図版22 小松遺跡 遺物 (10)
図版11 新島旧三島本郷遺跡 遺構 (3)	図版23 小松遺跡 遺物 (11)
図版12 大宮神社低地遺跡 遺物	・新島旧三島本郷遺跡 遺物

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査の経緯と経過

千葉県東部に位置する九十九里地域は、太平洋の黒潮の影響で年平均気温が15度内外、年間降水量1,510mmと温暖な気候に恵まれた立地条件を有する。この好条件を活用し、水稻・野菜・畜産部門の主産地であり、県内では耕地面積の12.3%、施設面積の14.0%、農業粗生産額の10.3%を占めている。また、京浜・京葉地域への農林畜産物の供給や都市生活者への緑地・レクリエーション供給の場としての役割が年々大きくなり、農業資源活用地域としての重要性が一層高まっている。

そこで、京浜・京葉地域への新鮮な農産物の速やかな供給、地域の活性化、地区内の交通渋滞の緩和などの必要性から広域的な生産基盤として基幹となる農道を整備する広域農道の工事が計画された。これに伴って、東金土地改良事務所長から事業予定地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会へ提出された。千葉県教育委員会では現地踏査を踏まえて、事業予定地内的一部に遺跡が所在する旨的回答をした。この回答を受けて、その取扱いを関係機関で協議を重ねた結果、事業の性格上やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなった。調査は、財団法人千葉県文化財センターが実施することとなった。各年度の作業内容等は下記のとおりである。

<発掘作業>

平成9年度	大宮神社低地遺跡	期間	平成9年4月7日～平成9年4月18日
		内容	(上層) 確認調査 1,000m ² のうち100m ² (上層) 本調査 なし
		組織	東部調査事務所長 石田廣美 担当者 主任技師 安井健一
平成9年度	大宮神社低地遺跡	期間	平成9年10月1日～平成9年11月28日
		内容	(上層) 確認調査 1,560m ² のうち156m ² (上層) 本調査 1,360m ²
		組織	東部調査事務所長 石田廣美 担当者 主任技師 石塚 浩・廣瀬和之・渡邊昭宏
平成9年度	小松遺跡	期間	平成9年11月25日～平成10年1月30日
		内容	(上層) 確認調査 2,410m ² のうち482m ² (上層) 本調査 215m ²
		組織	東部調査事務所長 石田廣美 担当者 主任技師 渡邊昭宏
平成10年度	小松遺跡	期間	平成10年11月2日～平成10年11月30日
		内容	(上層) 確認調査 590m ² のうち118m ² (上層) 本調査 80m ²
		組織	東部調査事務所長 三浦和信 担当者 研究員 遠藤治雄
平成11年度	大宮神社低地遺跡	期間	平成11年11月1日～平成11年11月15日
		内容	(上層) 確認調査 226m ² のうち23m ² (上層) 本調査 なし
		組織	東部調査事務所長 三浦和信 担当者 研究員 遠藤治雄
平成11年度	新島旧三島本郷遺跡	期間	平成11年12月1日～平成11年12月14日
		内容	(上層) 確認調査 657m ² のうち66m ² (上層) 本調査 なし

		組織 東部調査事務所長 三浦和信 担当者 研究員 遠藤治雄
平成13年度	大宮神社低地遺跡	期間 平成13年12月3日～平成13年12月20日
		内容 (上層) 確認調査 620m ² のうち620m ² (上層) 本調査 なし
		組織 東部調査事務所長 折原 繁 担当者 室長 大野康男
平成14年度	新島旧三島本郷遺跡	期間 平成15年2月3日～平成15年2月14日
		内容 (上層) 本調査285m ²
		組織 東部調査事務所長 折原 繁 担当者 上席研究員 大槻一実
<整理作業>		
平成11年度	大宮神社低地遺跡・小松遺跡	
		内容 水洗・注記から実測の一部まで
		組織 東部調査事務所長 三浦和信 担当者 研究員 遠藤治雄
平成13年度	大宮神社低地遺跡・小松遺跡・新島旧三島本郷遺跡	
		内容 水洗・注記の一部から原稿の一部まで
		組織 東部調査事務所長 折原 繁 担当者 研究員 黒沢 崇
平成14年度	新島旧三島本郷遺跡	内容 水洗・注記の一部から原稿の一部まで
		組織 東部調査事務所長 折原 繁 担当者 上席研究員 大槻一実
平成15年度	大宮神社低地遺跡・小松遺跡・新島旧三島本郷遺跡	
		内容 原稿の一部から刊行まで
		組織 東部調査事務所長 折原 繁 担当者 上席研究員 石倉亮治
		研究員 黒沢 崇

2 調査方法

各遺跡の発掘区は、対象となる区域を包含するように、国土地理院の国土座標を基準として設定した。遺跡ごとに基点を、大宮神社低地遺跡はX=-44,300 Y=57,900、小松遺跡はX=-45,120 Y=57,360、新島旧三島本郷遺跡はX=-42,260 Y=60,470⁽¹⁾とし、20m×20mの方眼を大グリッドとして設定した。小松遺跡は、北からA、B、C、…、西から1、2、3、…、とし、新島旧三島本郷遺跡は、北から1、2、3、…、西からA、B、C、…、とした。更に大グリッドを2m四方の小グリッドに分割し、北西隅を00、南東隅が99になるように番号を付した。調査ではこれらを組み合わせて、4B-35、5D-11などと呼称し、図面等の記録類や遺物の取り上げの表記に使用した。

確認調査は、調査対象範囲の面積に対し、10%を目安にトレーンチを設定して行った。調査区面積が僅少な場合には調査区全体に対して確認調査を行った。確認結果を受けて本調査範囲を決定し、表土を重機で除去し、その後、遺構及び遺物包含層の検出・精査・記録を行った。遺構は、遺跡ごとに通し番号を付した。なお、現地調査から報告に至るまで、原則的に遺構番号の変更是行っていない。

第2節 遺跡の位置と環境（第1図、第1表、図版1）

1 地理的環境

九十九里平野は、南端の太東岬から北東部の刑部岬までの約60km、幅が約10kmの典型的な海岸平野であ



第1図 周辺の遺跡 (S=1/50,000)

第1表 周辺の遺跡一覧表

遺跡名	種別	時期	遺跡名	種別	時期
1 殿台遺跡	包蔵地	奈良・平安	26 前田遺跡	包蔵地	縄文
2 三軒宮遺跡	包蔵地	平安	27 鳥坂上古御堂遺跡	包蔵地	(後)
3 目前前遺跡	包蔵地	平安	28 鳥坂下南道跡	包蔵地	縄文
4 芦場遺跡	包蔵地	平安	29 白幡遺跡	包蔵地	奈良・平安・中世
5 粉豆遺跡	包蔵地	平安	30 高宮道跡	包蔵地	奈良・平安・中世
6 目羅後遺跡	包蔵地	平安	31 古谷敷遺跡	包蔵地	古墳(前)
7 押出遺跡	包蔵地	平安	32 木水深道跡	包蔵地	縄文(後)・古墳・平安
8 宮塚遺跡	包蔵地	平安	33 重横地道跡	包蔵地	縄文
9 宮ノ後遺跡	包蔵地	平安	34 佐毛新田道跡	包蔵地	古墳・奈良・平安
10 九十二削遺跡	包蔵地	平安	35 八幡道跡	包蔵地	古墳
11 九十削道跡	包蔵地	平安	36 下之郷遺跡	包蔵地	平安
12 六十七削道跡	包蔵地	平安	37 折戸遺跡	包蔵地	奈良・平安
13 十一削道跡	包蔵地	平安	38 山王遺跡	貝塚・包蔵地	奈良・平安
14 上原遺跡	包蔵地	平安	39 新屋遺跡	包蔵地	奈良・平安
15 二十五削道跡	包蔵地	中・近世	40 小柳遺跡	包蔵地	平安
16 不動院遺跡	城壁	中世	41 芋川遺跡	包蔵地	平安
17 四割道跡	包蔵地	中・近世	42 寺田遺跡	包蔵地	平安
18 木戸陣屋	陣屋	中・近世	43 重道跡	包蔵地	古墳(前)
19 木戸船跡	城館	中・近世	44 南郷小学校西遺跡	包蔵地	奈良・平安・近世
20 十七削道跡	包蔵地	古墳・中・近世	45 小泉遺跡	無落	
21 十六削道跡	包蔵地	平安	46 草深宝嚴寺遺跡	包蔵地	平安
22 十五削道跡	包蔵地	平安	47 開富道跡	包蔵地	平安
23 九削道跡	包蔵地	中・近世	48 小松岡遺跡	包蔵地	平安
24 八削道跡	包蔵地	奈良・中世	49 中谷遺跡	包蔵地	平安
25 六十五削道跡	貝塚・包蔵地	奈良・平安・中・近世	50 桜ヶ谷荒堀遺跡	包蔵地	平安

り、かつて海や沼であった低地部分と砂丘（砂堤）などの微高地の部分で構成される。海岸部に沿って10数列の砂堤帯は、発達度合いから大きく第Ⅰ～第Ⅲ砂堤群に分けられている。第Ⅰ砂堤群は、東金市以南を中心に広がり、縄文時代中期頃に形成された。第Ⅱ砂堤群は、東金市以北から徐々に発達し、中・北部で最も広く発達している。縄文時代後期頃に形成され、縄文時代晚期から弥生時代にかけて更に発達した。第Ⅲ砂堤群は、海岸沿い全域に一定して広がり、古墳時代以降に形成されたと考えられている^⑨。今回報告する3遺跡は、第Ⅱ砂堤群上のはば中央に位置する。下総台地から太平洋へ流出する木戸川河口から直線距離にして約3.5kmの右岸に小松遺跡、対岸に大宮神社低地遺跡が立地する。栗山川河口から約3.5km、西に約2.5kmの地点に新島旧三島本郷遺跡が立地している。それぞれの調査地の標高は3m～4mである。

2 歴史的環境

成東町・松尾町・横芝町域の台地上には数多くの遺跡が存在する。同様に、九十九里平野にあたる低地部分にも遺跡が多く確認されてきている。しかし、発掘事例が数少なく、遺跡分布調査での遺物の採集により、種別は包蔵地とされているものがほとんどである。九十九里平野に立地する遺跡を第1図に示した^⑩。

縄文時代～近世まで各時代にわたり遺跡が確認されている。縄文時代では、後期の土器片（加曾利B式）が鳥喰上古御堂遺跡や本水深遺跡で採集されており、本砂堤帯の形成時期の妥当性を示しているが、第Ⅱ砂堤帯の中でも内陸寄りに分布する傾向がある。古墳時代の遺物が採集されているのは十七割遺跡・古谷敷遺跡・原横地遺跡・偕毛新田遺跡・原遺跡で、第Ⅱ砂堤帯中央からやや内陸寄りに分布する。平安時代以降は遺跡数が増大し、本砂堤帯が安定したことを示すものといえる。粉豆遺跡・小泉遺跡では調査が行われているが、いずれも遺構や遺物は少なく、遺跡の性格は明らかではない。また、九十割遺跡・粉豆遺跡では製鉄関連遺物が出土している点が注目される。時期が中世とされている遺跡では、ほとんどの遺跡でカワラケが採集されている。また、不動院遺跡・木戸陣屋・木戸館跡など城館遺跡も存在する。

注

(1) この基点のWeb版TKY2JGDVer.1.3.79バーマーVer.2.1.1による日本測地形系ベッセル標準体での緯度経度値は、大宮神社低地遺跡：北緯35° 35' 56.26778"、東経140° 28' 20.69519"、小松遺跡：北緯35° 35' 29.77097"、東経140° 27' 59.02956"、新島旧三島本郷遺跡：北緯35° 37' 01.91431"、東経140° 30' 03.35970"である。

世界測地系G S R-80標準体での座標値は、大宮神社低地遺跡：X=-43,944.9861、Y=57,605.9511、緯度経度値は、北緯35° 36' 08.00297"、東経140° 28' 08.83064"、小松遺跡：X=-44,764.9693、Y=57,065.9462、緯度経度値で北緯35° 35' 41.50893"、東経140° 27' 47.16759"、新島旧三島本郷遺跡：X=-41,904.8656、Y=60,176.0538、緯度経度値で北緯35° 37' 13.64918"、東経140° 29' 51.48857"になる。

(2) 森脇 広 1979 「九十九里平野の地形発達史」『第四紀研究』18-1

(3) 1998 「千葉県埋蔵文化財分布地図(2)-香取・海上・匝瑳・山武地区(改訂版)-」 (財)千葉県文化財センター
渡辺修司 1996 『小泉遺跡(御用地3257地点)』 (財)山武都市文化財センター

平山誠一 1999 『小泉遺跡B地区』 (財)山武都市文化財センター

伊藤一男 1986 『横芝町文化財研究紀要Ⅱ粉豆遺跡学術調査中間報告-横芝町南部における低地遺跡の研究-』 横芝町教育委員会

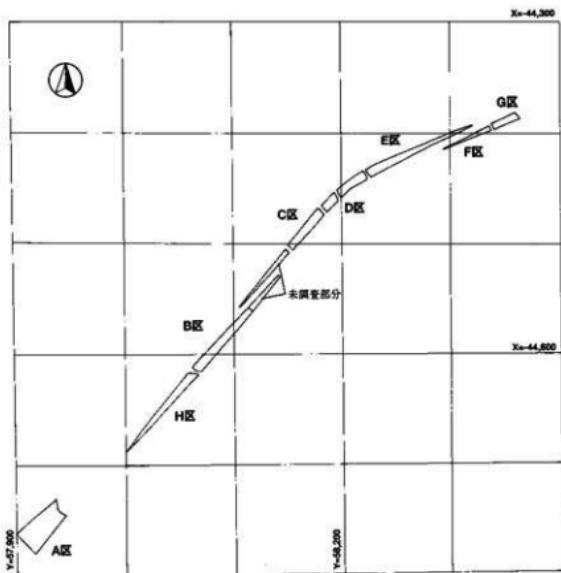
第2章 大宮神社低地遺跡

第1節 概要（第2・3図）

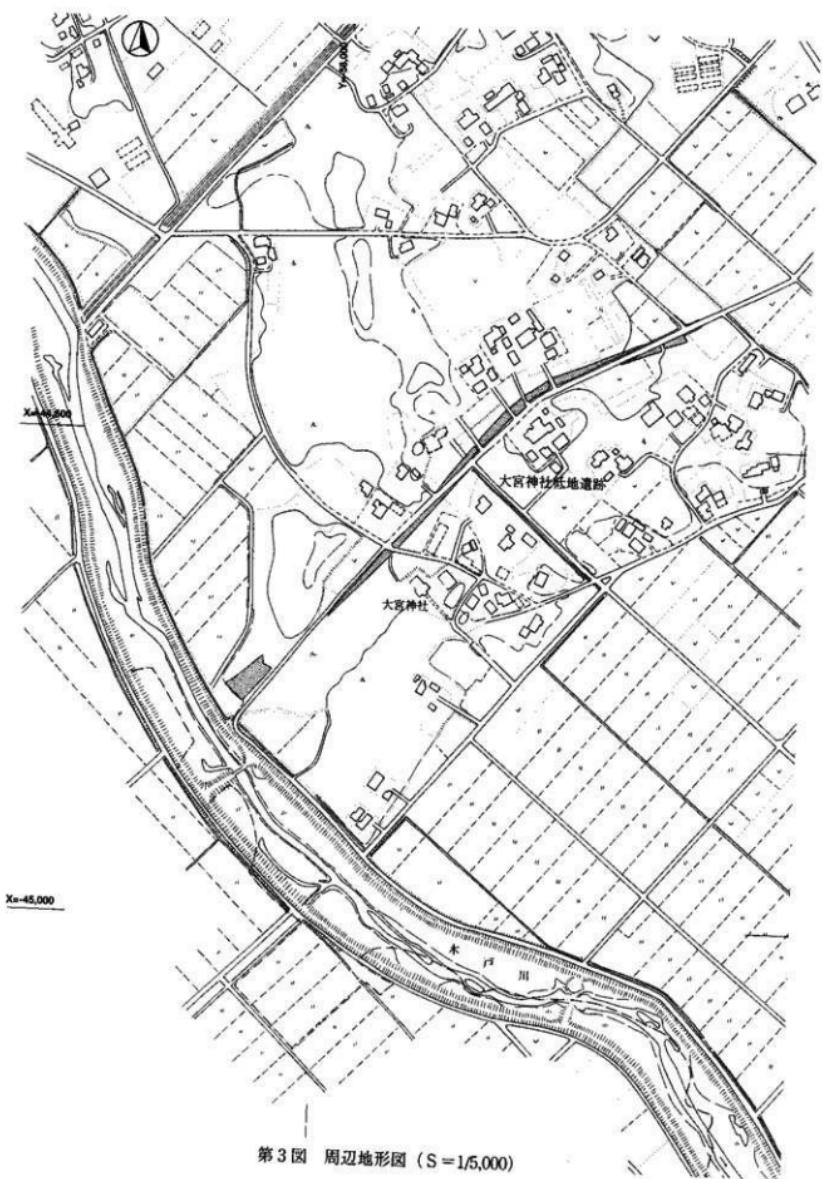
調査区をA区～H区に分け、数年度にわたり断続的に調査を行った。A区～E区を平成9年度、F・G区を平成11年度、H区を平成13年度に調査した。H区はトレンチではなく、当初から調査区全面の表土を剥がして確認調査を行った。調査区南西には木戸川、H区の南東には大同2年（807年）の創建と伝えられる大宮神社⁽¹⁾が位置し、調査区の標高は平均3.8mである。

土層は、各調査区とも大きく3層に分層できる。第1層群が現表土層を含む上層にあたる。客土や新しい耕作土の砂層で構成される。第2層群が腐植土による黒泥質の砂層を主体とするものである。黒泥質砂層と黒泥質砂がブロックで含まれる黄褐色砂層で構成される。第3層は混じりの少ない黄褐色・青灰色砂層で、今回はこの層の上面で遺構確認を行った。

遺構は土坑、溝、ピットが主体である。浅く落ち込む遺構についてはセクションに不整合面が確認できることから、水田や畑に関する耕作跡と考えることも可能である。遺構に確實に伴って出土した遺物はほとんどなく、あっても小片である。調査区全体をみても遺物は僅少で、奈良・平安時代土器片と中・近世の陶磁器小破片が主体で、これらより古い土器は出土していない。部分的な発掘調査であるため、遺跡の性格や遺構の時代を決定することは非常に難しい状況である。



第2図 調査区配置図 (S=1/4,000)



第3図 周辺地形図 ($S = 1/5,000$)

第2節 遺構（第2表）

数年にわたる調査のためA区、B区～E区、F・G区について調査時に独自に番号がふられている。今回の報告に際し、煩雑さを避けるため原則的には数字自体は変えていないが、F・G区については遺構番号とトレンチ名との混乱があるので、F区に続く遺構番号を新たに付した。A区のみ番号が重複するため番号の頭にAを付けることで分けた。なお、H区の近世状遺構については遺構番号は付けられていない。報告書での表記変更については以下のとおりである。

A区001～003→A001～A003号 B区～E区 1号～90号→001～090号 F・G区6・7・？→091～093号

A区（第4図、図版2）

調査区の長軸に沿って4本のトレンチを設定した。ほとんどが後世の耕作によって削平され、調査区南東の一部包含層（黒泥質砂層）が残った部分から土坑（A001号）1基と溝（A002号・A003号）2条が検出されたのみである。調査区いづれの遺構も遺物が出土せず、時期や機能は不明である。A区全体をみても遺物は僅少で、軽石片・骨片が微量出土した。

B区（第5図、図版2・3）

調査区北東側からは遺構が検出されていない。確認面にも耕地整理時の重機による擾乱の跡が及んでいた。遺構の覆土はほぼ共通し、腐植土を含む黒泥色砂質土を主体とする。調査区の南西壁に沿って、004号が位置し、それに直行する方向に短い溝がほぼ等間隔で数條検出された。004号の北側部分に落ち込みがみられ、その部分から小片ではあるが、土師器片・須恵器片・銅錢が出土した。004号の他の部分は浅く、005号・014号も同様になだらかに落ち込む形態である。いづれの遺構も覆土には腐植土を多く含む黒泥質砂層が堆積し、その上面は水平ではなく耕作状の不整合面が観察されることから、耕作跡の可能性が考えられる。また、調査区南側半分ではピットや土坑が集中して検出された。

C区（第6図）

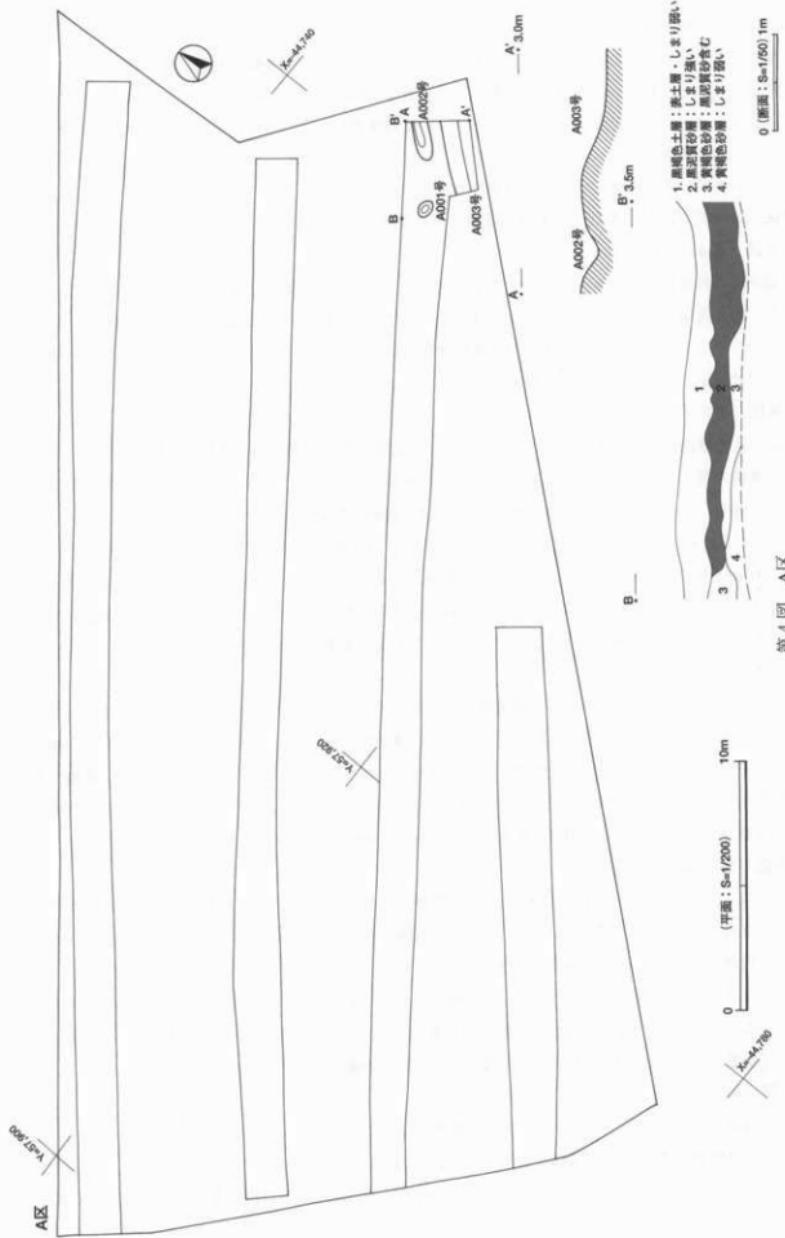
C区は現水田の下で、ほとんどが遺構確認面の黄褐色砂層まで、客土や天地返しなどの擾乱を受けている。調査区南西側からは遺構が検出されておらず、確認面にまで重機の痕跡が深く及んでいる。調査区北側には平面形が方形の土坑がやや密集して検出された。掘り方は直線的で近代以降の新しい遺構である可能性が高い。調査区北東隅にはなだらかな落ち込み（084号）がみられ、セクションで耕作状の不整合面が確認できる。089号土坑は084号覆土をきっており、084号より新しい。

D区（第6図、図版3）

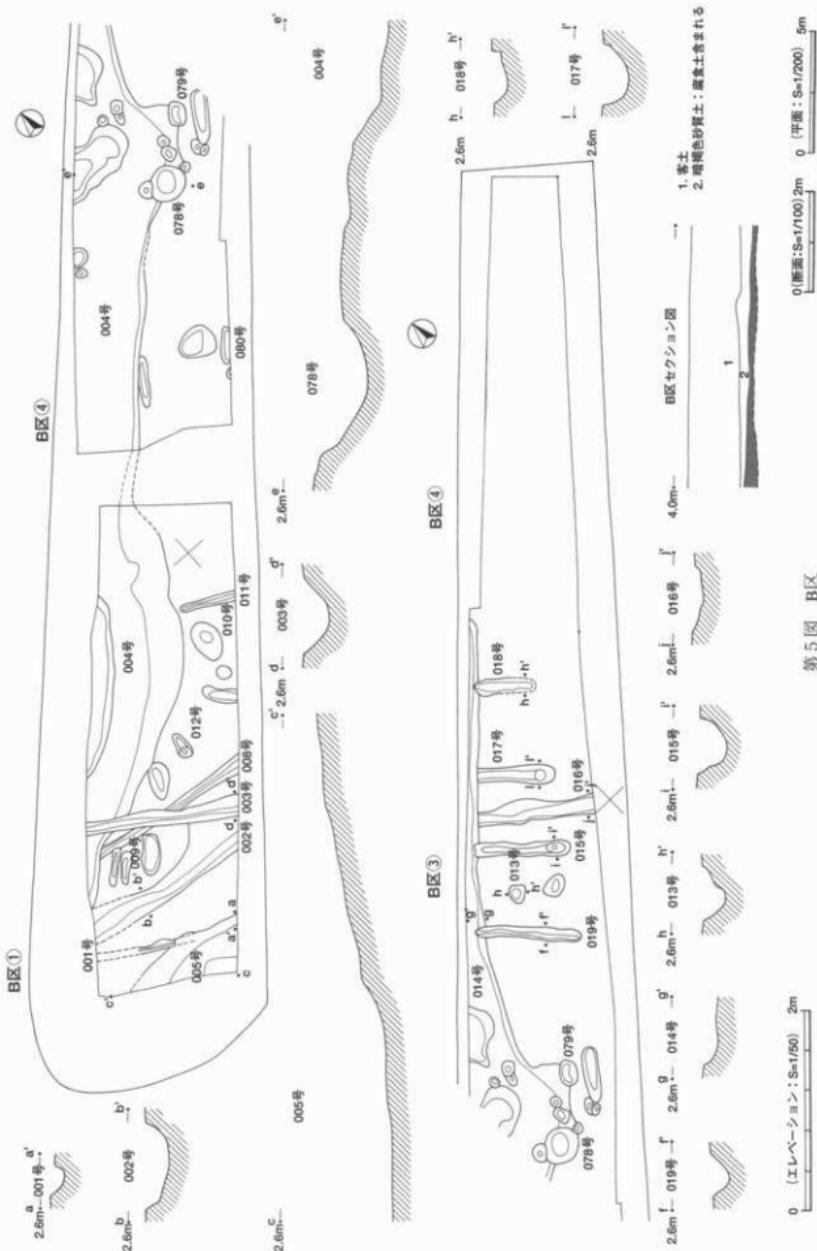
D区は①・②と2回に分けて調査を行った。遺構は土坑状の落ち込みが主体である。調査区南側の低くなつた部分（084号）では幅0.2mの黒いシミ状の痕跡が並んで検出された。セクションで耕作状の不整合面が確認されたことから耕作跡の可能性が考えられる。050号・051号に接するように地山の上に明褐色の砂による高まりが確認された。これらを畔とすると、050～052号の浅い落ち込みを水田区画ととらえることも可能である。遺物は指頭大の軽石が多数出土したが、時期を決定できる遺物は出土しなかつた。020・021号の覆土はやや灰色を帯びた色調で、その他の遺構は黒色を主体としている。

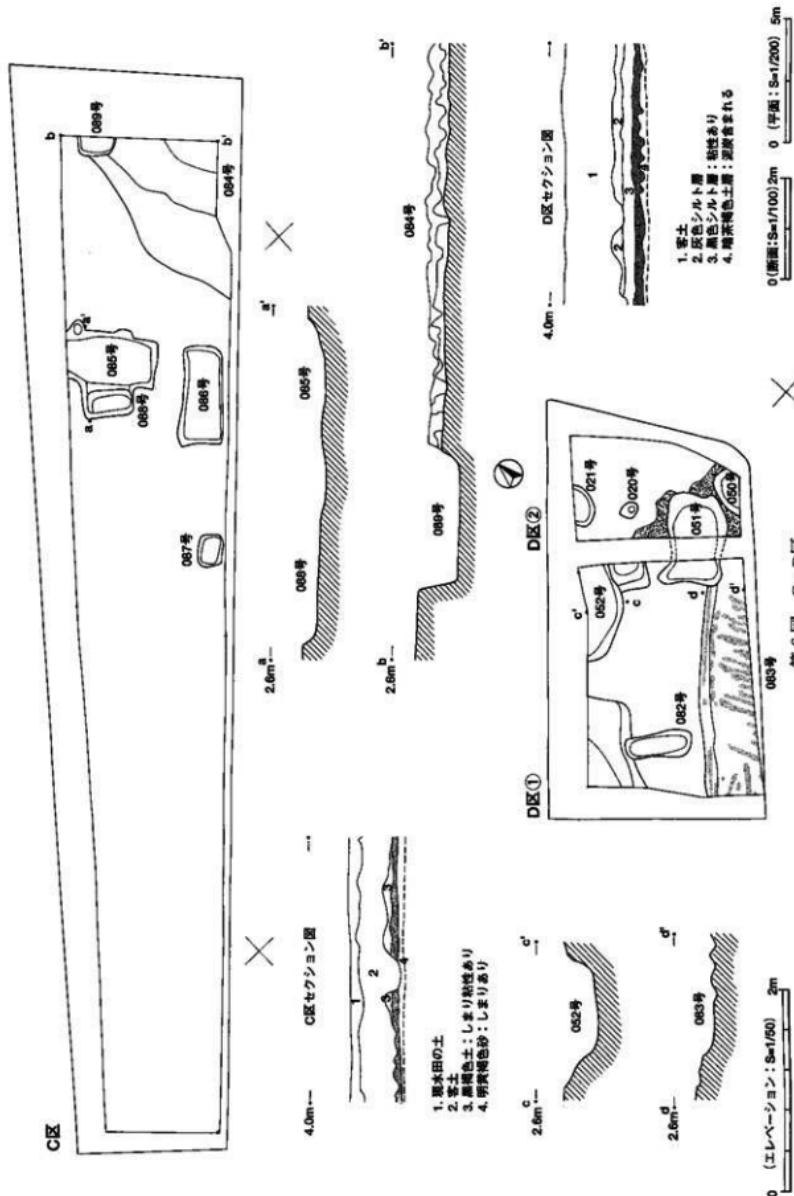
E区（第7・8図、図版3・4）

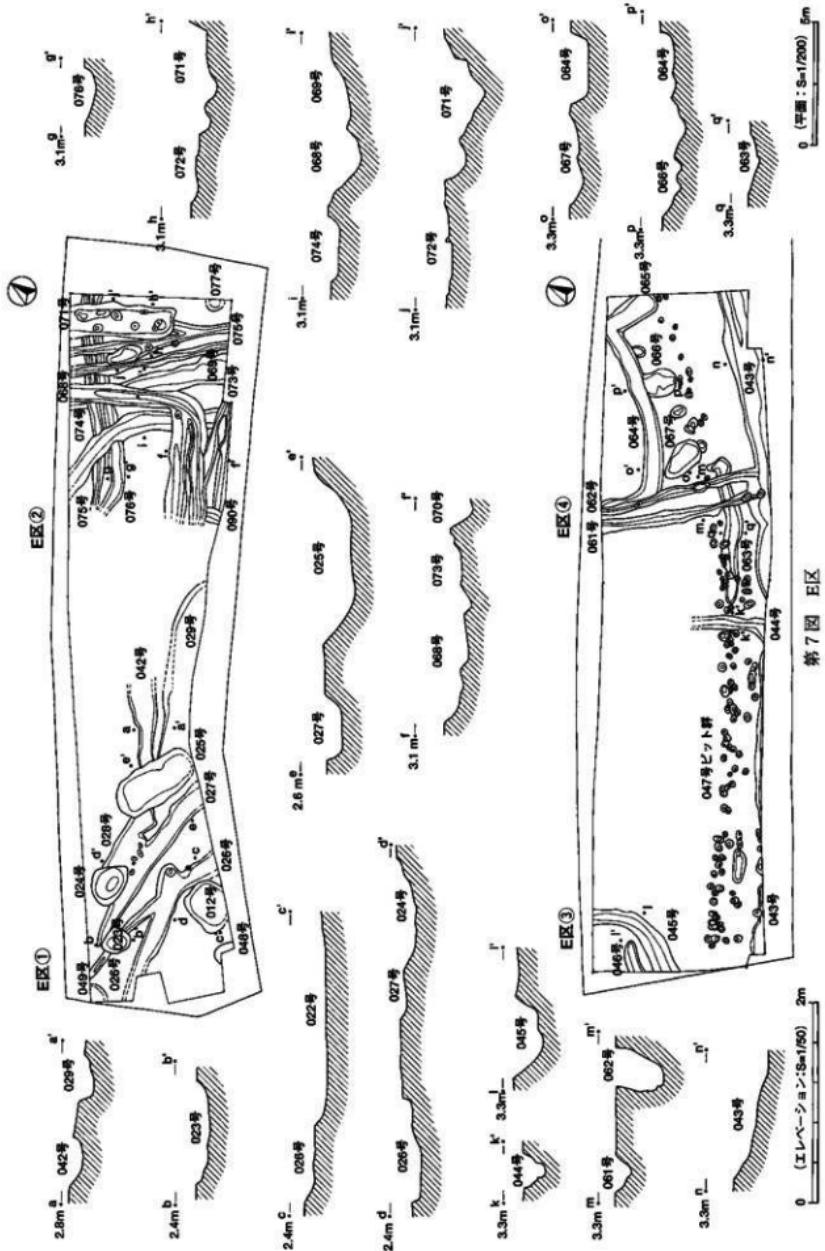
E区は排土の関係で①～⑦の7回に分けて調査を行った。E区①では溝と土坑が切り合って検出された。E区②には時期の異なる溝状遺構が集中する。L字に屈曲するものもみられる。E区③・④にかけては小ピットが列状に続き、横列の痕跡と考えられる。043号・047号以外の遺構は覆土の色調が黒色で共通して

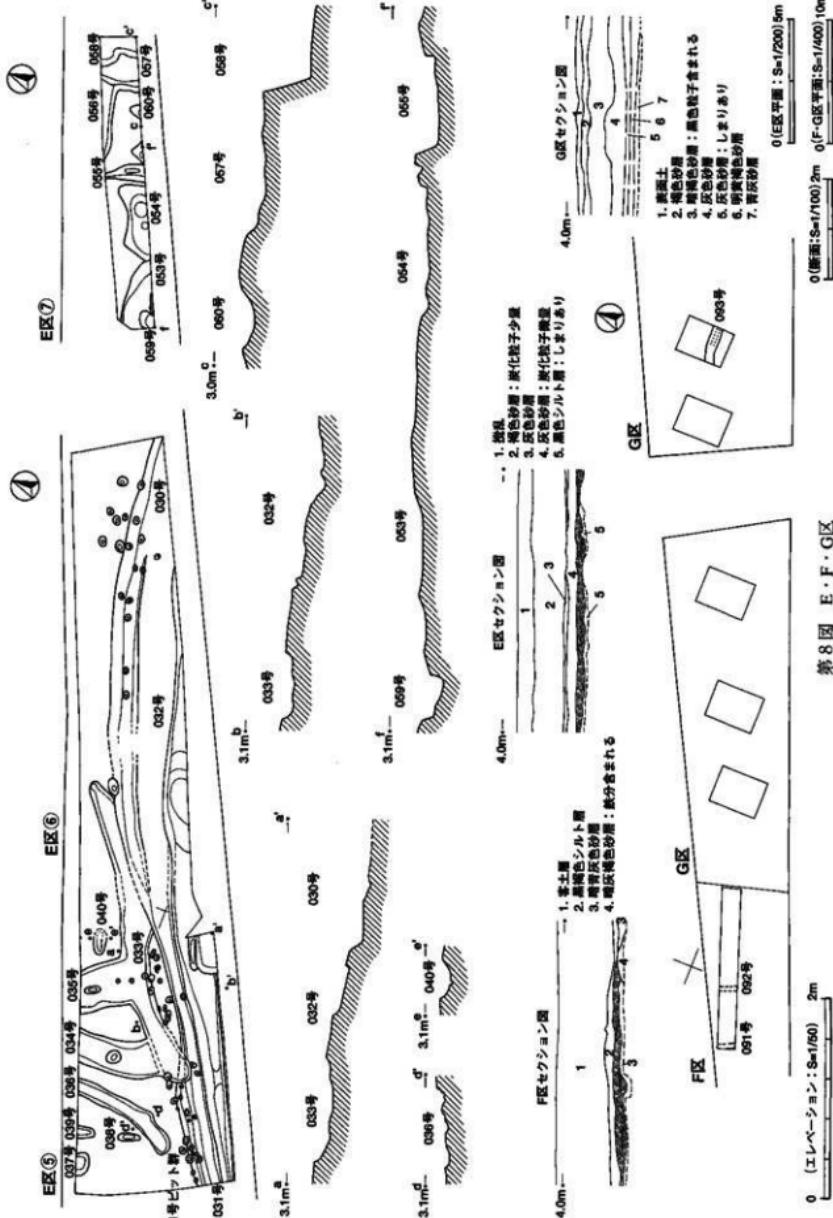


第4図 A'区









おり、ほぼ同時期に機能していたものと考えられる。遺物には土師器片がみられることから、遺構の時期は、奈良・平安時代と思われる。E区④～⑥にかけては溝が東西方向へ直線的にのび、ピットが所々で検出されている。溝は南側の現道路と平行しており、硬化面は確認できなかったが、形状から道として機能していたと推定できる。また、E区⑦では土坑が集中している。

F区（第8図、図版4）

F区・G区は埋設管が調査区にあるため、それを避けながら確認調査を行った。091号・092号の2条の平行する浅い溝を検出したが、遺物は出土しなかった。091号の覆土は泥炭が含まれる黒褐色砂質土、092号の覆土は、地山層と同様の暗青灰色砂である。

G区（第8図）

小規模なトレーナチを5か所設定して、確認調査を行った。最も東側のトレーナチから溝（093号）が1条検出された。覆土はしまりのない褐色砂である。覆土中層からは貝が出土し、貝層は0.25mの厚みで堆積していた。サンプルで採取してきたものは9点のみであったが、すべてチョウセンハマグリである。火を受けたためか貝の表面はボロボロである。その他の遺物は出土していない。

H区（第9図、図版4）

全面確認調査を行った。確認面では縦横に走る溝状遺構が確認され、一部掘り下げたところ、中近世の陶磁器が出土した。検出した遺構は形状・主な遺物から考えて近世以降の畑の歴跡と判断し、確認調査で終了した。わずかではあるが、中世の陶磁器小破片も出土していたことから、中世にさかのばる遺構が含まれている可能性も考えられる。

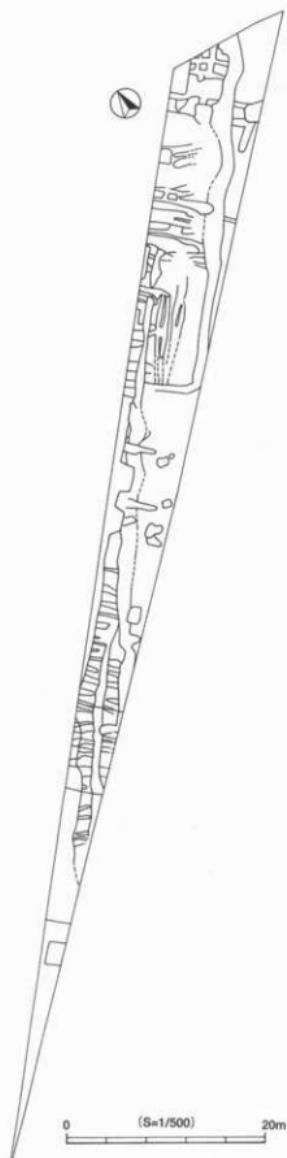
第3節 遺物（第10図、第3表、図版12）

実測個体は非常に少ない。確実に遺構から出土したものはほとんどなく、摩滅した小片が目立つ。遺構内出土の遺物種類・点数については遺構一覧表に掲載したが、遺構の時期決定は難しい。小片ではあるが、中世遺物については実測が不能であっても写真図版に掲載した。遺物番号は写真図版を基準としている。

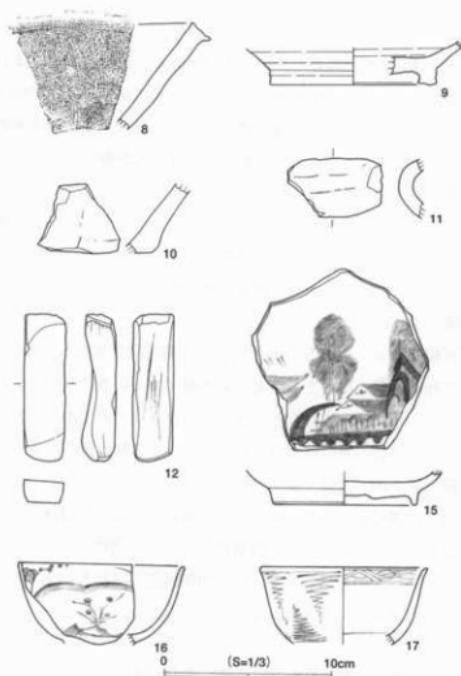
1はE区から出土した白磁皿破片である。14世紀初頭のものと考えられる。2～4はH区から出土した中国産青磁破片である。14世紀代のものと考えられる。5はH区から出土した縁軸小皿口縁部破片である。二次焼成をうけ、色調がやや白みを帯びる。瀬戸窯産の15世紀代のものと考えられる。6はH区から出土した皿底部破片である。二次焼成を受け、色調がやや白みを帯びる。瀬戸窯産の16世紀～17世紀のものと考えられる。7は52号から出土した平碗破片である。古瀬戸窯中～後期様式の時期と考えられる。8は032号から出土した常滑産捏ね鉢破片である。外面に刷毛目が施され、内面は摩滅している。口縁外端部にはみ出しがみられる。15世紀代のものと考えられる。9は024号出土の陶器高台付底部破片である。10は088号から出土した常滑産捏ね鉢底部付近破片である。胎土に白色砂粒が多く含まれ、やや白みを帯びる。11は052号出土の筒状土製品破片である。一部火を受けた部分がみられる。12はH区から出土した凝灰岩製の磁石である。13～19は近世の肥前系の染付破片である。13・19が068号、14・18がH区、15～17がG区から出土した。

銭貨は5点出土したが、内2点は鎌のため時期が不明である。計測値等は表を参照していただきたい。

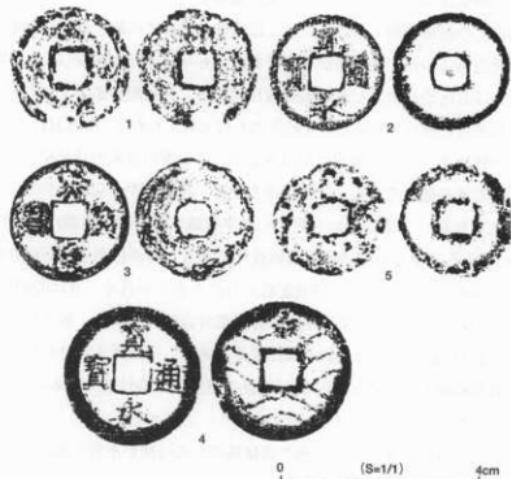
注（1）1984『松尾町の歴史』上巻 松尾町



第9図 H区



第10図 出土遺物



第2-1表 遺構一覧表

No	地区	種類	深さ(m)	遺物(点数)			その他の遺物
				奈良・平安		中世	
				土器類・須恵器	陶器類	近世~	
A001号	A区	土坑	0.30				
A002号	A区	溝	0.14				軽石1
A003号	A区	溝	0.28				軽石2
001号	B区①	溝	0.06				
002号	B区①	溝	0.23				
003号	B区①	溝	—			1	
004号	B区①④	水田跡?	0.45	28 · 1		1	軽石56・カワラケ6・羽口2
005号	B区①	水田跡?	0.94				軽石23
006号	B区①	溝	0.09				
009号	B区①	土坑群	0.14~0.09				
010号	B区①	土坑	0.19				
011号	B区①	溝	0.09				
012号	B区①	ピット群	0.23~0.11				
013号	B区③	土坑	0.23				
014号	B区③	水田跡?	0.09				
015号	B区③	溝	0.33~0.17				軽石11
016号	B区③	溝	0.17~0.07				軽石23
017号	B区③	溝	0.29~0.16				軽石68
018号	B区③	溝	0.07				軽石17
019号	B区③	溝	0.20				
020号	D区②	土坑	0.41				
021号	D区②	土坑	0.30				
022号	E区①	土坑	0.16				軽石2
023号	E区①	土坑	0.10				
024号	E区①	土坑	0.32			1	
025号	E区①	土坑	0.48	8 · 0			軽石4
026号	E区①	溝	0.07				軽石1・カワラケ1
027号	E区①	溝	0.09				軽石1
028号	E区①	溝	0.24	2 · 0			
029号	E区①	溝	0.12				
030号	E区⑤	溝	0.20	1 · 0			軽石8・貝・土人形
031号	E区⑤	溝	0.06				
032号	E区⑤	溝	0.23	3 · 0	2	22	軽石4・キセル2・種子3
033号	E区⑤	溝	0.17~0.04				軽石1
034号	E区⑤	溝	0.16				
035号	E区⑤	溝	0.15			1	
036号	E区⑤	溝	0.18			3	
037号	E区⑤	土坑	0.30				
038号	E区⑤	土坑	0.12				
039号	E区⑤	土坑	0.06				
040号	E区⑤	土坑	0.10				
041号	E区⑤	ピット群	0.14~0.08				
042号	E区①	溝	0.16				
043号	E区③	溝	0.26~0.08				
044号	E区③	溝	0.21				
045号	E区③	溝	0.25~0.17				軽石1
046号	E区③	溝	0.24				
047号	E区③	ピット群	0.31~0.13	5 · 0		6	軽石4・カワラケ3・スラグ1
048号	E区①	土坑	—				
049号	E区②	土坑	0.05				
050号	D区②	土坑?	0.11				軽石1
051号	D区①②	土坑?	0.12				軽石8
052号	D区①②	水田跡?	0.51	1 · 0	1		軽石49・筒状土製品1

第2-2表 遺構一覧表

No	地区	種類	深さ(m)	遺物(点数)			
				奈良・平安		中世	近世~
				土師器・須恵器		陶磁器	
053号	E区⑦	土坑	0.14				
054号	E区⑦	土坑	0.23				
055号	E区⑦	溝	0.08				
056号	E区⑦	溝	0.07				
057号	E区⑦	溝	0.05				
058号	E区⑦	土坑	0.30				
059号	E区⑦	土坑	0.33		1		
060号	E区⑦	土坑	0.05				
061号	E区④	溝	0.10				軽石 4
062号	E区④	溝	0.19~0.10				
063号	E区④	溝	0.10				
064号	E区④	溝	0.17				
065号	E区④	溝	0.17				
066号	E区④	土坑	0.27				
067号	E区④	土坑	0.16				
068号	E区②	溝	0.25~0.16	5 · 0	4	21	軽石 2
069号	E区③	溝	0.11	12 · 0			
070号	E区②	溝	0.22	26 · 0			軽石 1・木製品(枕) 1
071号	E区②	溝	0.23	10 · 1		3	軽石 1
072号	E区②	溝	0.05	30 · 0		1	
073号	E区②	溝	0.09				
074号	E区②	溝	0.22~0.08	16 · 0			不明鉄器 4
075号	E区②	溝	0.09				カワラケ 1
076号	E区②	溝	0.06				
077号	E区②	土坑	0.08				
078号	B区④	土坑	0.25				
079号	B区④	土坑	0.15~0.13				
080号	B区④	土坑	0.08				
081号	D区①	土坑	0.23				軽石 3
082号	D区①	土坑	0.28				
083号	D区①	水田跡?	0.19	1 · 0			
084号	C区②	水田跡?	0.39				軽石 9
085号	C区②	土坑	0.20				軽石 2
086号	C区②	土坑	0.30				軽石 2
087号	C区②	土坑	0.23				
088号	C区②	土坑	0.27		1		
089号	C区②	土坑	0.33				
090号	E区②	溝	0.08				
091号	F区	溝	0.13				
092号	F区	溝	0.15				
093号	G区	溝	0.09				貝
-	H区	鉢状遺構		3 · 0	5	4	軽石 1

第3表 錢貨計測表

No	銭貨名	計測値(単位:mm)					重量(g)	出土位置	備考
		縦外径	縦内径	横外径	横内径	厚			
1	不明	25.2	20.2	9.3	6.5	1.8	3.11	004号	
2	寛永通寶	23.9	20.4	7.5	6.5	0.9	2.65	032号	
3	黒寧元寶	24.7	20.7	8.3	6.5	1.1	2.90	F区	
4	寛永通寶	28.3	21.6	8.1	6.7	1.0	4.22	F区	四文銭
5	不明	23.4	18.6	8.6	5.8	1.1	1.76	F区	

第3章 小松遺跡

第1節 概要（第11・12図）

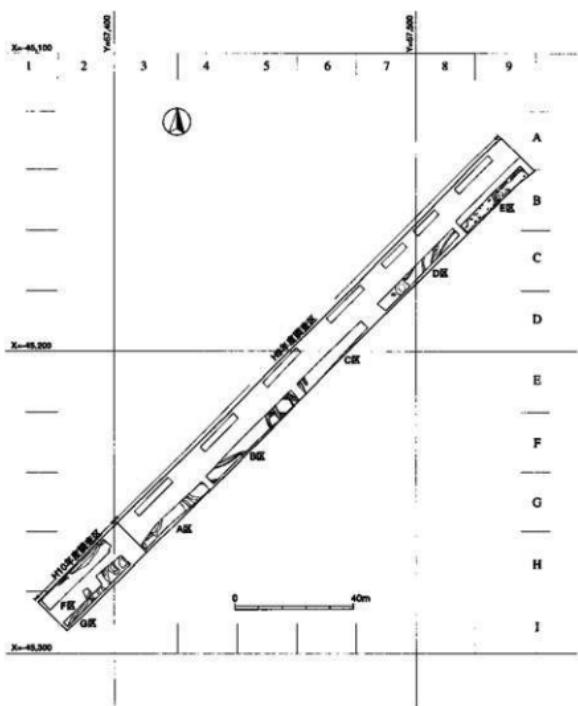
調査区は大きく2地点に分かれ、北側は平成9年度、南側は平成10年度に調査を行った。調査トレンチはA区～G区と呼称した。しかし、平成9年度調査区で遺構の検出されていない北側に位置するトレンチに対しては区名を付していない。

調査区の標高は4m前後で、現在周辺には水田と畠が広がる。土層は、上層が客土を主体とする新しい時期の耕作土の砂層（黄褐色・褐色・灰色）である。その下に古代以降の包含層または、耕作土にあたるシルト層・黒泥質砂層が堆積する。今回は、その下に堆積する混じりのほとんどない黄褐色砂層の上面で、遺構確認を行った。

遺構は土坑と溝状遺構が主に検出され、遺物は中・近世の陶磁器を中心に比較的多く出土した。陶磁器以外にも石塔・板碑・骨片・炭化物などが出土したことから、墓地として利用されていた部分があることも明らかになった。しかし、トレンチ内ののみの調査のため、遺構を完掘できたものは少なく、遺跡の性格を決めるることは難しい。



第11図 周辺地形図 (S=1/5,000)



第12図 調査区配置図 (S=1/1,500)

第4表 遺構一覧表

遺構No.	地区	種類	深さ(m)	備考	遺構No.	地区	種類	深さ(m)	備考
001号	A区	溝	0.48	水田開通遺構?	019号	D区	溝	0.45	水田開通遺構?・鉄貨
002号	A区	土坑	0.62	貝・骨片	020号	D区	ピット2	0.21	
003号	A区	溝	0.36	水田開通遺構?	021号	E区	土坑	0.53	
004号	A区	土坑	0.37	炭化物・骨片・鐵貨	022号	E区	土坑	0.53	
005号	A区	土坑	0.14		023号	E区	土坑	0.37	
006号	D区	土坑	1.18	石塔・粘土・炭化物・骨片	024号	E区	土坑	0.27	
007号	B区	溝	0.16	周辺に耕作痕	025号	E区	土坑	0.37	
008号	B区	溝	0.05	周辺に耕作痕	026号	E区	ピット群	0.25~0.15	
009号	B区	溝	0.06		027号	E区	ピット群	0.41~0.10	
010号	B区	溝	0.08		028号	E区	溝	0.48	鉄貨
011号	B区	溝	0.09	周辺に耕作痕	029号	G区	溝	0.41~0.27	鉄貨
012号	B区	溝	0.46		030号	G区	井戸	0.80	井戸枠・板磚・瓦白・鉄貨
013号	B区	溝	0.23		031号	G区	溝	0.59	
014号	B区	溝	0.35~0.26		032号	G区	土坑	0.15	
015号	C区	溝	0.08		033号	G区	土坑	0.78	貝・板磚・骨片
016号	C区	溝	0.10		034号	G区	土坑	0.75	骨片
017号	D区	土坑	0.38	鉄貨	035号	G区	土坑	0.64	鉄貨
018号	D区	溝	0.40		—	F区	近世水田あり		

第2節 遺構（第4表）

A区（第13図、図版5）

溝と土坑が検出された。溝はすべて調査区短軸に平行する方向にのびる。遺物は中世の陶器破片が出土した。003号溝は周辺のセクションで耕作痕状の不整合面が確認できたため、耕作に関する遺構の可能性が考えられる。土坑は、調査区端にかかり、完掘することができず、規模・形状は不明である。002号・004号は調査初期には同一遺構ととらえていたが、2基の土坑が近接していたものであった。002号の方が新しく、中・近世陶器破片と少數ながら貝（チョウセンハマグリ・ダンペイキサゴ）、骨片が出土した。貝層厚は10cm前後である。004号からは陶器片と銭貨（北宋銭・明銭）、炭化物、骨片が出土した。

B区（第13図、図版5・6）

確認面に擾乱が多かったが、溝が7条検出された。溝はすべて調査区短軸にほぼ平行する方向にのびる。012号溝以外はすべて浅い掘り込みである。007号～010号の新旧関係は007号が最も新しく、008号、009号、010号の順に古い。007号溝と011号溝の間、008号溝の西側にはセクションで耕作痕状の不整合面が確認できたため、耕作に関する遺構の可能性がある。遺物はほとんど出土していないため時期は不明である。

C区（第14図、図版6・7）

全体に確認面にまで擾乱が及んでいた。015号・016号溝2条のみ検出した。覆土は鉄分が多く含まれる灰褐色土である。重機による削平深度の可能性もあるが、C区北東側は砂堤帯の中でも低い間堤部にあたると考えられ、遺構の検出された南西部に比べ0.4m以上確認面に差が生じ、調査時には水が湧き出した。

D区（第14図、図版6・7）

調査区東から溝、西側から土坑が検出された。006号土坑から遺物が豊富に出土した。内耳土器を主体に、石塔など中世の遺物が出土した。覆土には粘土の塊、炭化物、骨片が含まれており、土坑墓である可能性が高いが、遺物は覆土上層～中層にかけて出土した。019号溝は018号溝に比べしっかりと掘り込みで、形状がA区で検出された003号溝と類似し、耕作に関する遺構の可能性が考えられる。020号は並ぶ2基のビットであるが、遺物が出土せず、時期は不明である。017号は明銭・中世陶器が出土している。下場は水が湧き出し、壁が崩落したため検出できなかったが、006号と類似するものと考えられ、覆土も灰褐色土で共通する。

E区（第14図、図版7）

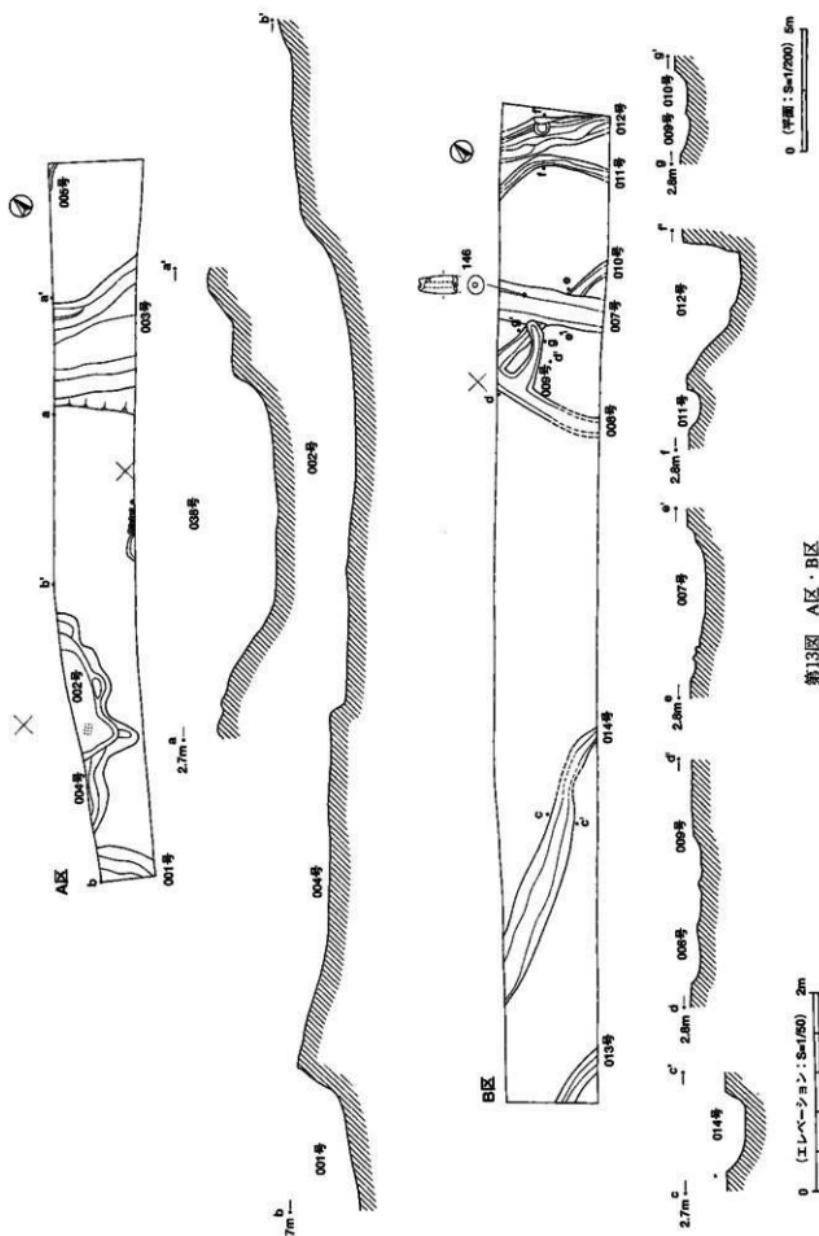
調査区中央に掘り込みのしっかりととした028号溝が位置する。その東側に不整形な土坑が調査区北西壁に沿って連続して検出された。また、整然とは並ばないがビット群が検出された。深さは一定しない。E区の遺構覆土はいずれもレンズ状に堆積している。遺物は中・近世の陶磁器が少量出土した。

F区（第15図、図版7）

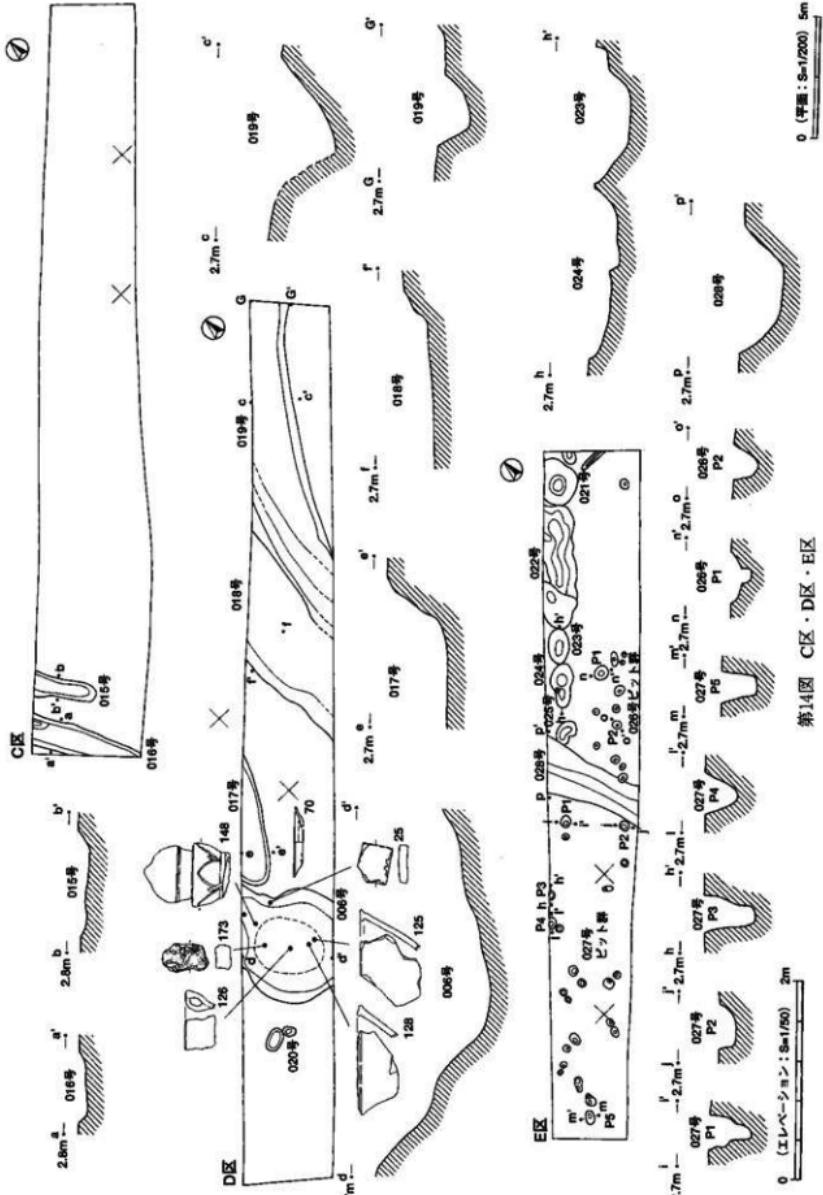
調査区北西壁に沿って、緩やかに落ち込む部分が検出され、泥炭を含む黒色土が堆積する。遺構番号は付されていない。

G区（第15図、図版8）

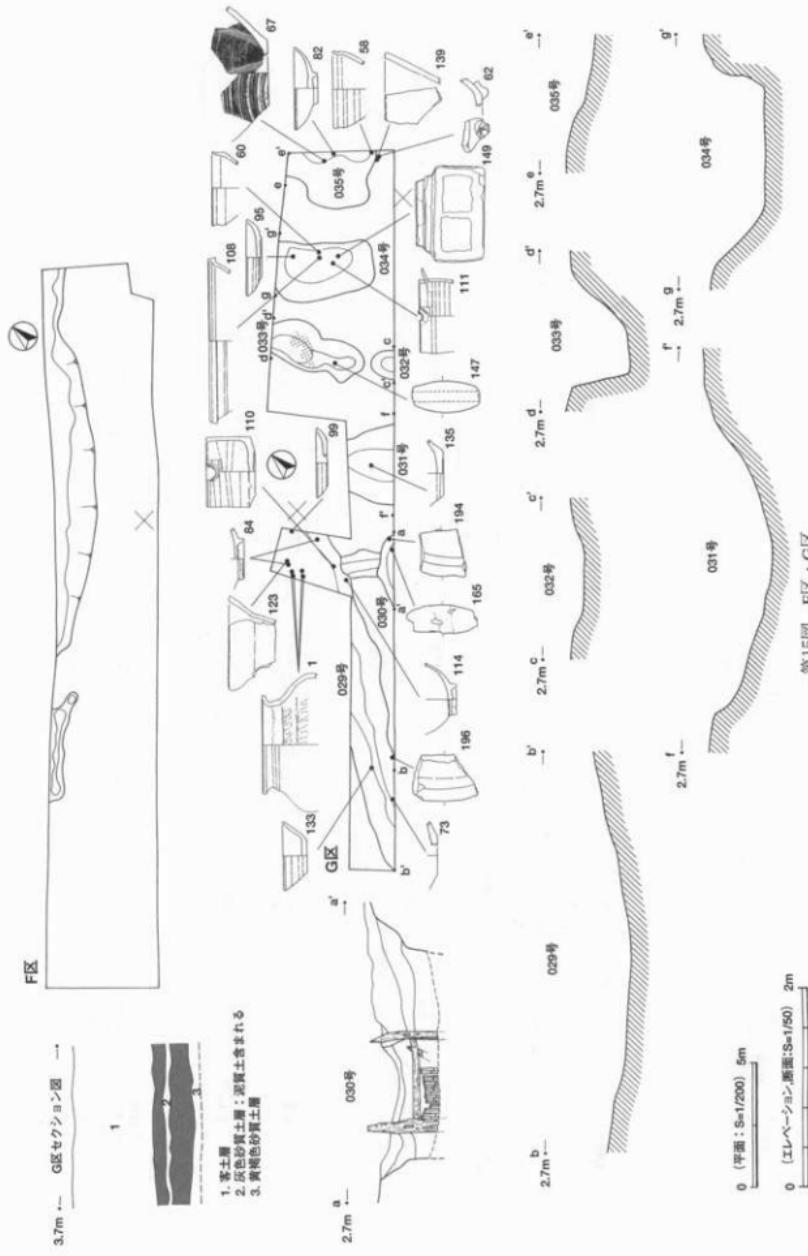
本遺跡で最も遺物が出土した調査区である。調査区東側には不整形の土坑が連続して並び、調査区西側には溝が検出された。いずれの遺構も中世～近世にかけての遺物が出土した。030号は井戸跡で、井戸枠も残存していた。中世～近世にかけての陶磁器のほか石製品（板碑・茶臼・砥石）も出土した。033号の覆土中層からは貝層が検出された。貝種はチョウセンハマグリとダンペイキサゴで構成され、表面はボロ



第13図 A区・B区



第14図 CEX・DEX・EEX



第15回 F区・G区

ボロしており火を受けていたことが分かる。サンプル内の点数比はチョウセンハマグリ：ダンベイキサゴ=17：26である。サンプル内からは貝の他に骨片、雲母片岩製の板碑破片が出土した。また、034号からも骨片が出土した。

第3節 遺物

遺物は、中・近世の陶磁器を主体に多様の遺物が出土した。なお、中近世土器・陶磁器・石製品については図示に至らなかった個体についても写真図版に掲載し、観察表に記載した。挿図・図版の遺物Noは観察表のNoを基準とした。

陶磁器等（第16図～第19図、第5・6表、図版13～21）

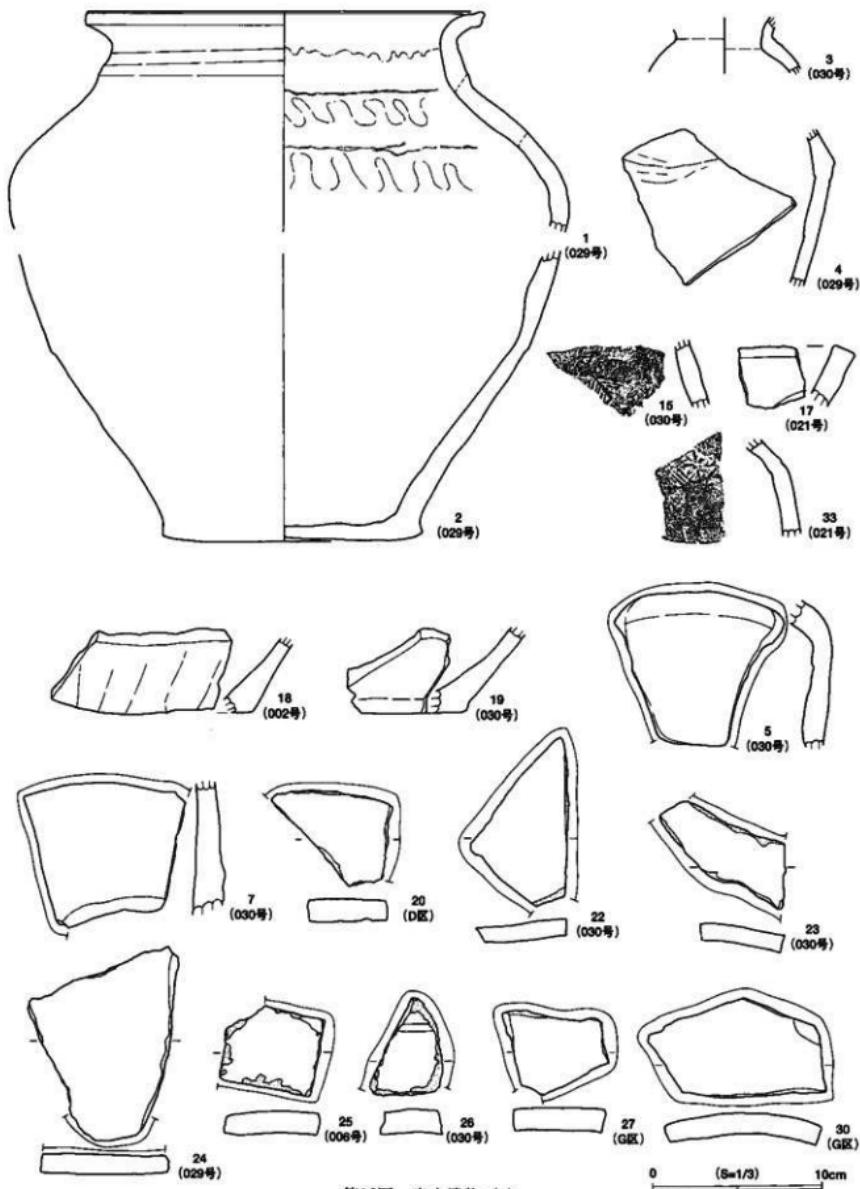
中・近世の陶磁器が比較的多量に出土したが、貿易陶磁器は1点も出土していない。産地としては主に瀬戸窯、美濃窯、常滑窯、肥前製品が主体であり、器種は多様なあり方を示している。また、在地の製品としてカワラケ、内耳土器、捏ね鉢などが出土した。

陶磁器を大まかな時期別にみると、細片を除くと調査区全体では中世陶磁器129点、近世以降陶磁器89点出土した。中でもG区からの出土が圧倒的に多く、C区・F区からは出土していない。また、G区遭構内出土遺物をみると中世陶器単独ではなく、近世陶磁器とセットで出土している傾向がみられる。最も古いものは、029号出土の常滑窯産の壺で13世紀の前半の資料である。破片個体が多く、詳細に年代を比定できるものが少ないが14～16世紀にかけての遺物も安定して出土しており、中世（13世紀前半）から近世にかけて継続して周辺地に人々が生活していたことを示すものといえよう。産地の傾向は中世陶器に関しては常滑、瀬戸、在地窯産が点数比で3等分する。近世以降の陶磁器は半数以上が瀬戸・美濃窯産の製品が占め、次に肥前が続く。

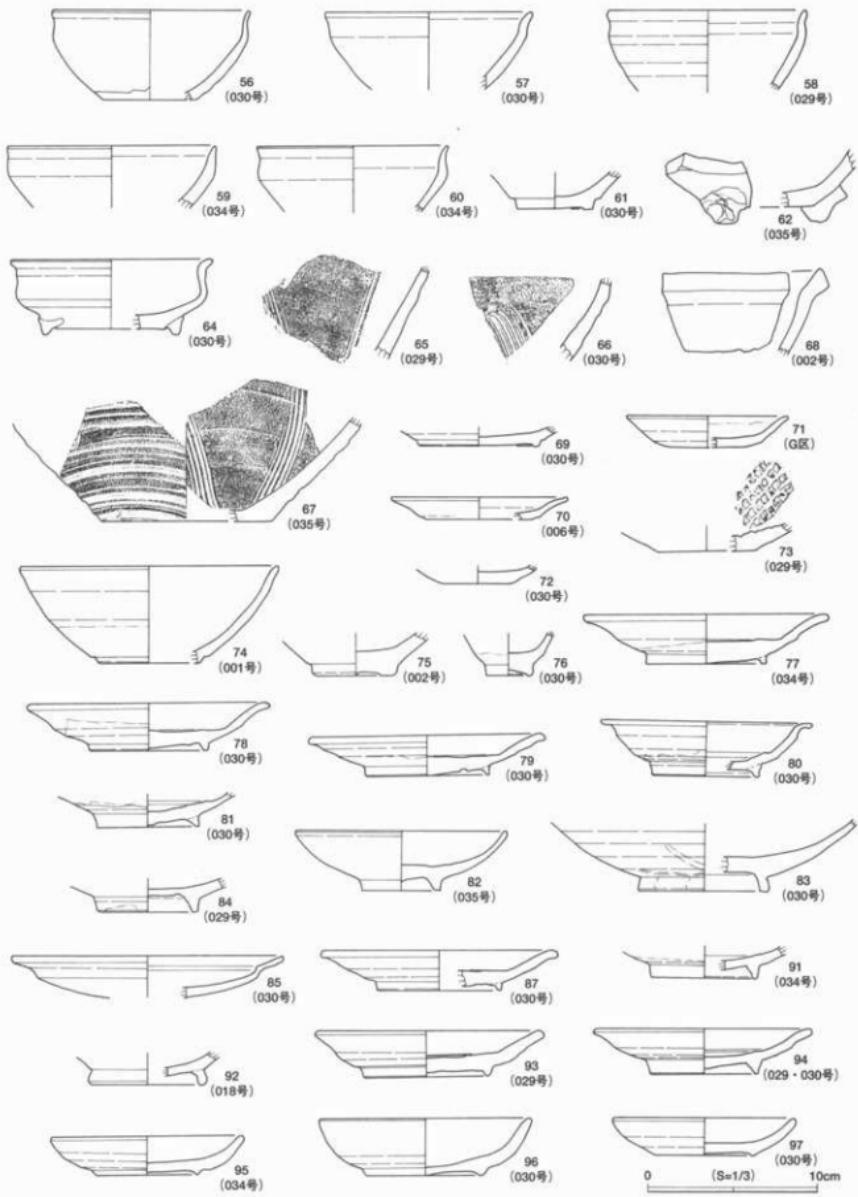
1～29・31・35～38・40～44・46～55は常滑窯産の製品である。壺の破片が多く、二次的に砥石に転用している例が多くみられた。35～38は胎土としては常滑窯産と考えられるが、色調が黒灰色を呈し、他のものとは異質で、器形は壺形であると考えられる。30・32～34・39・45は渥美窯産の製品である。須恵質で、色調は灰色を呈する。56～60、62～75、77～79、87～113は瀬戸・美濃窯産の製品である。瀬戸窯産の製品は中世～近世まであり、天目茶碗・擂鉢・皿・香炉・瓶類など多様な器種が出土した。61の天目茶碗は胎土が赤く発色しており、異質である。77～88、91～94は輪禪皿である。030号から多量に出土しており、また完形に近いものが多い。105の小丸碗は二次的に火を受けたためか、白味を帯びる。116～121は肥前の染付磁器である。123～130は在地産の内耳土器で、ほとんどが006号から出土した。胎土に雲母が含まれる個体が多い。131～138はカワラケで、器面が全体的に摩滅気味である。139～142・145は瓦質の土器である。146～147は土錐で、重量はそれぞれ6 g、28 gである。

石製品等（第20・21図、第7表、図版16・21・22・23）

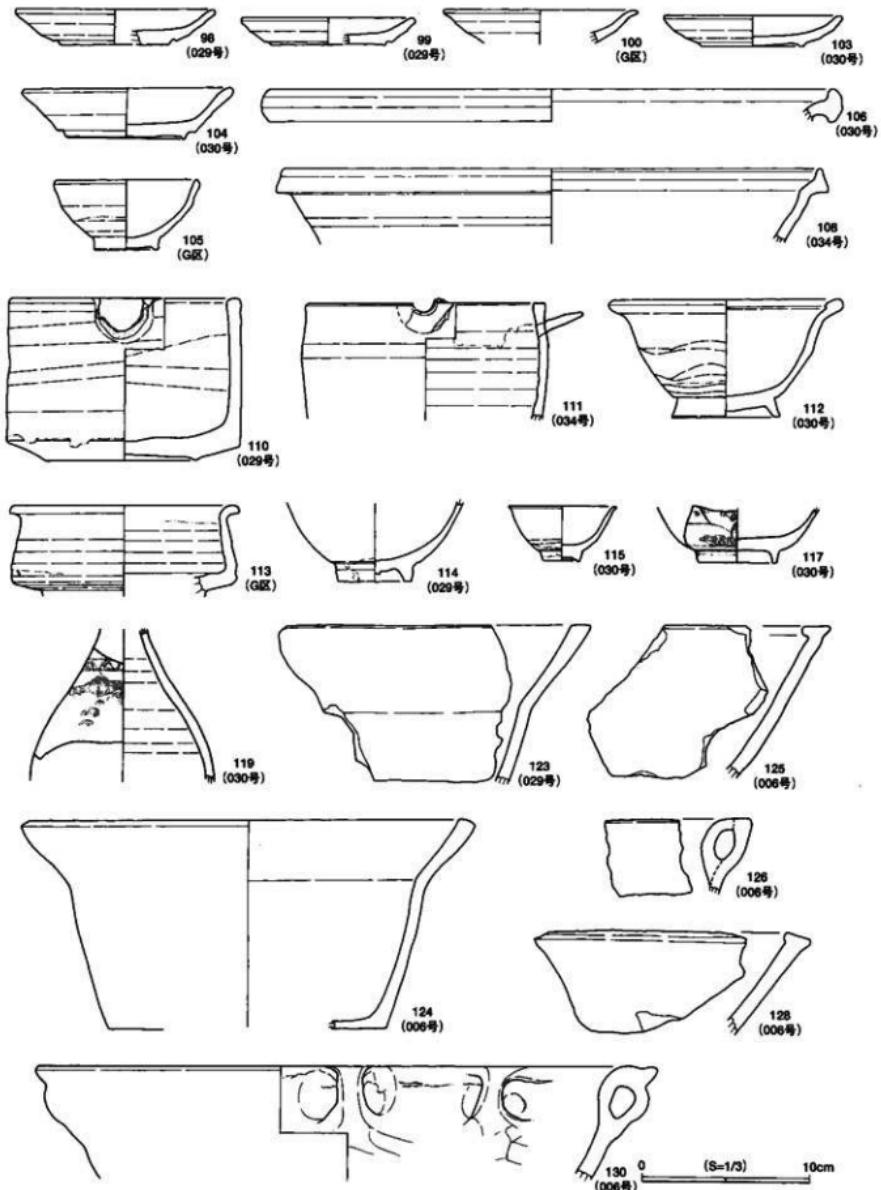
石製品としては、石塔・板碑・砥石・茶臼・軽石が出土した。262は宝篋印塔の相輪部分、263は基礎部分である。263の上面には塔身部をはじめ込むほぞ孔が穿たれている。どちらも安山岩製であるが、出土地点は離れており、色調も若干異なるため同一個体とは考えられない。板碑が006号・017号・027号・029号・030号・032号から出土しているがいずれも破片であり、碑文などの痕跡はみられない。石材はすべて雲母片岩で共通する。砥石は凝灰岩製と砂岩製のものが主体で、030号・034号から多く出土している。茶臼は192を除きすべて砂岩製で、029号・030号からの出土が多い。204～207は軽石である。



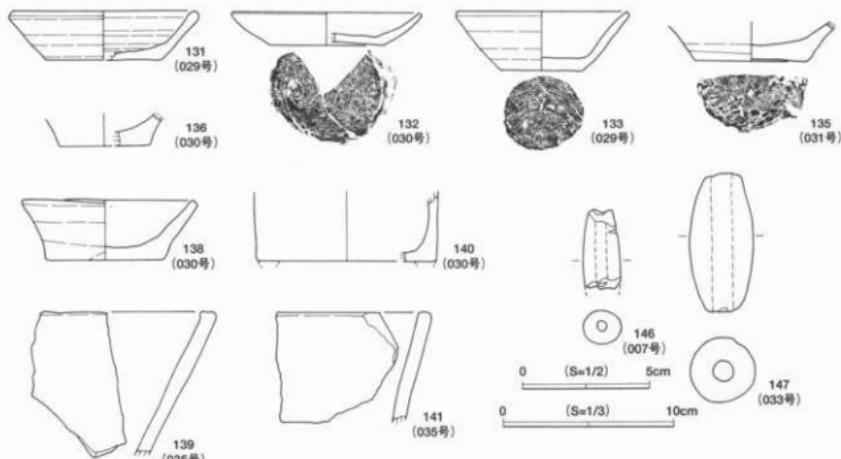
第16図 出土遺物 (1)



第17図 出土遺物 (2)



第18図 出土遺物 (3)



第19図 出土遺物 (4)

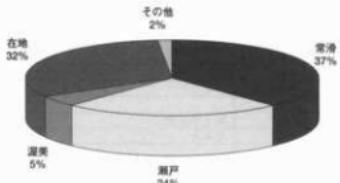
第5表 陶磁器点数表

調査区分

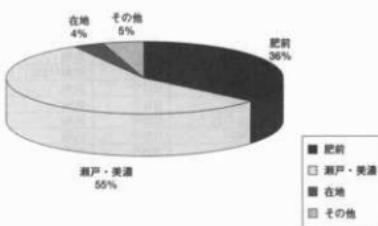
	A区	B区	C区	D区	E区	F区	G区	計
中世	8	2	0	27	12	0	80	129
近世	3	2	0	4	3	0	77	89

産地別

	常滑	瀬戸	渥美	在地	その他	計
中世	49	31	6	41	2	129
近世	30	46	3	4	83	



■ 常滑
□ 瀬戸
■ 渥美
■ 在地
□ その他

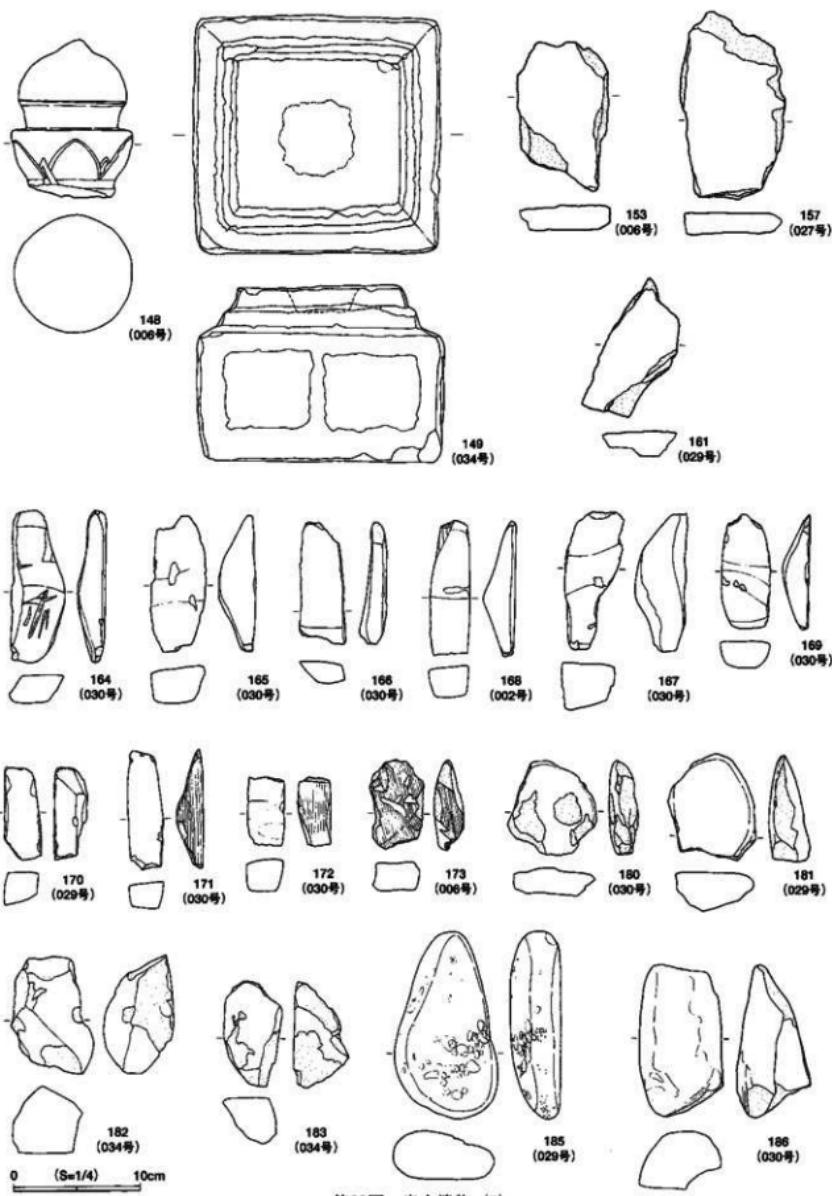


第6-1表 陶磁器觀察表

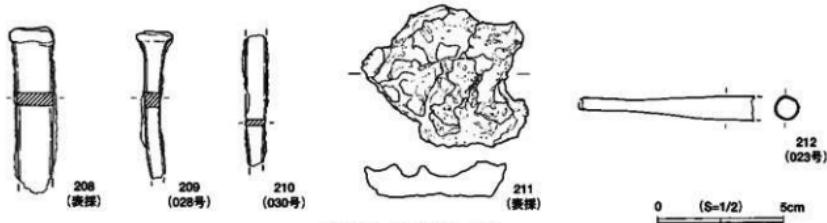
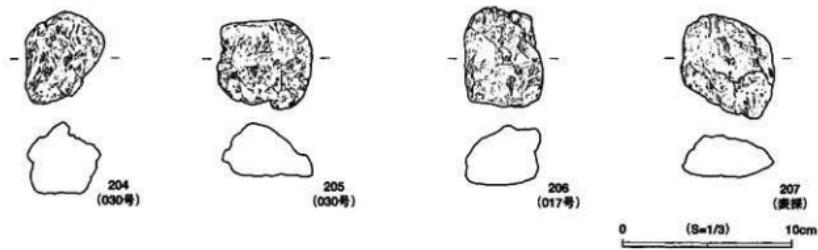
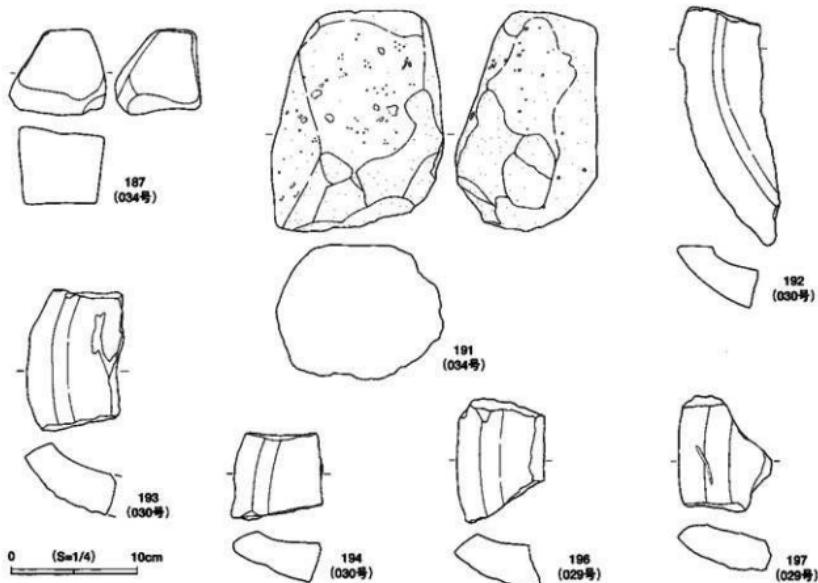
No.	器種	產地	出土位置	胎窯	殘存部	時期	年代・備考
1	陶器壺	常滑	029号	無(自然釉)	頭~肩部	中世	4~5型式(13c前半)
2	陶器壺	常滑	029号	無(自然釉)	底部	中世	1と同一個体
3	陶器壺	常滑	030号	無	頭部	中世	
4	陶器壺	常滑	029号	無	肩部	中世	
5	陶器壺	常滑	030号	無	頭部	中世	鐵石転用
6	陶器壺	常滑	030号	無	頭部	中世	
7	陶器壺	常滑	003号?	無	頭部	中世	
8	陶器壺	常滑	029号	無(自然釉)	頭部	中世	
9	陶器壺	常滑	030号	無(自然釉)	肩部	中世	
10	陶器壺	常滑	030号	無	頭部	中世	
11	陶器壺	常滑	003号	無(自然釉)	頭部	中世	
12	陶器壺	常滑	034号	無(自然釉)	頭部	中世	
13	陶器壺	常滑	034号	無	頭部	中世	
14	陶器壺	常滑	003-029号	無	頭部	中世	
15	陶器壺	常滑	030号	無	肩部	中世	
16	陶器壺鉢	常滑	030号	無	底部	中世	鐵石転用
17	陶器壺鉢	常滑	021号	無	口縁	中世	8型式(13c後半)
18	陶器壺鉢	常滑	1002号	無	底部	中世	
19	陶器壺鉢	常滑	1003号	無	底部	中世	
20	陶器壺	常滑	D区	無(自然釉)	頭部	中世	鐵石転用
21	陶器壺	常滑	028号	無(自然釉)	頭部	中世	鐵石転用
22	陶器壺	常滑	030号	無	頭部	中世	鐵石転用
23	陶器壺	常滑	030号	無	頭部	中世	鐵石転用
24	陶器壺	常滑	029号	無	頭部	中世	鐵石転用
25	陶器壺	常滑	006号	無(自然釉)	頭部	中世	鐵石転用
26	陶器壺	常滑	030号	無(自然釉)	頭部	中世	鐵石転用
27	陶器壺	常滑	G区	無	頭部	中世	歐石転用
28	陶器壺	常滑	C区	無	頭部	中世	鐵石転用
29	陶器壺	常滑	B区	無	頭部	中世	鐵石転用
30	陶器壺	綱美	G区	無	頭部	中世	鐵石転用
31	陶器壺	常滑	017号	無	頭部	中世	
32	陶器壺?	綱美	018号	無	頭部	中世	鐵石転用
33	陶器壺	綱美	021号	無	頭部	中世	
34	陶器壺	綱美	029号	無	頭部	中世	
35	陶器壺	不明(常滑?)	031号、G区	無	頭部	中世	器画“四”
36	陶器壺	不明(常滑?)	031号	無	頭部	中世	35と同一個体
37	陶器壺	不明(常滑?)	031号	無	頭部	中世	36と同一個体
38	陶器壺	不明(常滑?)	031号	無	頭部	中世	37と同一個体
39	陶器壺鉢?	綱美	030号	無	頭部	中世	34と同一個体?
40	陶器壺	常滑	021号	無	頭部	中世	
41	陶器壺	常滑	029号	無(自然釉)	頭部	中世	
42	陶器壺	常滑?	030号	無	頭部	中世	
43	陶器壺	常滑	030号	無	頭部	中世	
44	陶器壺	常滑	030号	無	頭部	中世	
45	陶器壺	綱美	021号	無	頭部	中世	
46	陶器壺	常滑	030号	無	頭部	中世	
47	陶器壺	常滑	026号	無	頭部	中世	
48	陶器壺	常滑	021号	無	頭部	中世	
49	陶器壺	常滑	019号?	無	頭部	中世	
50	陶器壺	常滑	029号	無	頭部	中世	
51	陶器壺	常滑	021号	無	頭部	中世	
52	陶器壺	常滑	026号	無	頭部	中世	
53	陶器壺	常滑	019号	無	頭部	中世	
54	陶器壺	常滑	030号	無	頭部	中世	
55	陶器壺	常滑?	G区	無	頭部	中世	須惠質
56	陶器天目茶碗	瀬戸	030号、G区	鉄胎	口縁~底部	中世	
57	陶器天目茶碗	瀬戸	030号	鉄胎	口縁	中世	
58	陶器天目茶碗	瀬戸	035号	鉄胎(特徴)	口縁~底部	中世	
59	陶器天目茶碗	瀬戸	034号	鉄胎	口縁~底部	中世	
60	陶器天目茶碗	瀬戸	034号	鉄胎	口縁~底部	近世?	
61	陶器天目茶碗	志戸呂?	030号	鉄胎	底部	中世	胎土小豆色
62	陶器直線大皿	瀬戸	035号	灰釉	底部	中世	足あり
63	陶器板盤	瀬戸	006号	灰釉	体部	中世	
64	陶器香炉	瀬戸	030号	鉄胎	口縁~底部	中世	足あり
65	陶器壺鉢	瀬戸	029号	焼胎	体部	中世	大窓
66	陶器壺鉢	瀬戸	030号	焼胎	体部	中世	大窓
67	陶器壺鉢	瀬戸	035号	焼胎	体部	中世	大窓
68	陶器壺鉢	瀬戸	002号	焼胎	口縁	中世	大窓1
69	陶器皿	綱美	030号	志野釉	底部	近世	達房
70	陶器堆友瓶	瀬戸	006号	灰釉	口縁~底部	中世	大窓2
71	陶器綠釉瓶	瀬戸	G区	灰釉	口縁~底部	中世	後晉
72	陶器綠釉瓶	瀬戸	030号	灰釉	底部	中世	後期
73	陶器御溫	瀬戸	029号	灰釉	底部	中世	後期

第6-2表 陶磁器観察表

No.	器種	產地	出土位置	胎葉	残存部	時期	年代・備考
74	陶器	瀬戸	001号	灰釉	口縁～底部	中世	
75	陶器平碗	瀬戸	002号	灰釉	底部	中世	後II
76	小环?	不明	030号	透明釉	底部	?	底面輪を回転ヘラケズリ
77	輪孔器	瀬戸	030号	透明釉	3/4残存	近世	第3小期
78	輪孔器	瀬戸	030号	透明釉	3/4残存	近世	第2小期
79	輪孔器	瀬戸	030号	灰釉	1/2残存	近世	第3小期
80	輪孔器	唐津	030号	-	1/3残存	近世	
81	輪孔器	唐津	030号	-	底部	近世	付高台(三角) 磁器?
82	輪孔器	肥前	035号	-	3/4残存	近世	
83	輪孔器	肥前	030号	(内)綠釉(外)透明	体部～底部	近世	
84	輪孔器	肥前	029号	(内)綠釉(外)透明	底部	近世	
85	輪孔器	肥前	030号	(内)綠釉(外)透明	口縁	近世	
86	輪孔器	肥前	030号	(内)綠釉(外)透明	1/1縁	近世	
87	輪孔器	瀬戸	030号	灰釉	1/4残存	近世	第3小期
88	輪孔器	瀬戸	034号	灰釉	1/5残存	近世	
89	缸	G区	-	口縁	-	近世	
90	缸	瀬戸	002号	灰釉or志野	口縁	近世	
91	輪孔器	瀬戸	034号	灰釉	底部	近世	
92	輪孔器	瀬戸	018号	灰釉	底部	近世	
93	輪孔器	瀬戸	029号	灰釉	口縁～底部	近世	
94	輪孔器	瀬戸	030号	灰釉	口縁～底部	近世	
95	丸皿	美濃	034号	志野(灰)	口縁～脚欠	近世	第4小期?、灯明
96	丸皿	美濃	030号	志野(灰)	1/2残存	近世	第4小期?
97	丸皿	美濃	030号	志野	1/2残存	近世	第4小期?
98	丸皿	美濃	029号	志野	口縁～底部	近世	第4小期?
99	丸皿	美濃	029号	志野	口縁～底部	近世	第4小期?、灯明
100	丸皿	美濃	G区	志野	口縁	近世	第4小期?
101	丸皿	美濃	030号	志野	底部	近世	
102	丸皿	美濃	G区	志野	底部	近世	
103	丸皿	瀬戸	030号	灰釉	口縁～底部	近世	
104	反皿	美濃	030号	灰釉	口縁～脚欠	近世	第3小期、灯明
105	小丸盤	瀬戸	G5	鉢輪	口縁～底部	近世	
106	落ち体	瀬戸・美濃	030号	鉢輪	口縁	近世	第4小期
107	落ち体	瀬戸・美濃	030号	鉢輪	1/1縁	近世	106と同一個体
108	落ち体	瀬戸	034号	鉢輪	口縁	中世?	
109	落ち体	瀬戸	030号	鉢輪	体部	近世	
110	片口	瀬戸	029号	鉢輪	ほぼ完全	近世	第4小期?
111	片口	瀬戸	034号	鉢輪	口縁・片口部	近世	第4小期?
112	埋胡研	瀬戸	030号	鉢輪	1/2残存	近世	
113	香炉	G区	-	焼物(陶輪)	口縁～底部	近世	17c、断面摩滅
114	丸瓶?	肥前	029号	鋼線輪	底部	近世	
115	小环?	肥前	030号	白磁	2/3残存	近世	
116	丸瓶	肥前	035号	染付	底部	近世	新面摩滅
117	丸瓶	肥前	030号	染付	底部	近世	黒斑?
118	丸瓶	肥前	030号	染付	底部	近世	黒斑?
119	衛利	肥前	030号	染付	頸部	近世	17c、断面摩滅
120	斐利	肥前?	G区	染付	肩部	近世	
121	丸瓶?	肥前?	030号	染付	口縁	近世～近代	
122	丸瓶	不明	030号	染付	1/3残存	近世～近代	
123	内瓦土器	在地	029号	-	口縁～体部	中世	15c、瓦質
124	内瓦土器	在地	006号	-	口縁～底部	中世	
125	内瓦土器	在地	006号	-	口縁～体部	中世	16c、瓦質
126	内瓦土器	在地	006号	-	耳部	中世	瓦質
127	内瓦土器	在地	030号	-	口縁	中世	
128	内瓦土器	在地	006号	-	口縁	中世	16c、瓦質
129	内瓦土器	在地	006号	-	口縁	中世	15c
130	内瓦土器	在地	006号	-	口縁	中世	
131	カワラケ	在地	030号	-	1/2残存	中世	孔あり?
132	カワラケ	在地	030号	-	1/2残存	近世	17～18c
133	カワラケ	在地	029号	-	1/3残存	?	
134	カワラケ	在地	-	-	体部～底部	中世	
135	カワラケ	在地	031号	-	底部	中世	
136	カワラケ	在地	030号	-	底部	中世	
137	カワラケ	在地	G区	-	底部	中世	
138	カワラケ	在地	030号	-	口縁～底部	?	
139	涅ね跡?	在地	035号	-	口縁	中世	瓦質
140	香か	在地	030号	-	底部	中世	瓦質
141	涅ね跡?	在地	035号	-	口縁	中世	瓦質
142	涅ね跡?	在地	035号	-	口縁	中世	瓦質
143	内耳土器	在地	G区	-	口縁	中世	
144	火鉢?	在地	D区	-	体部	近世	
145	土釜?	在地	034号	-	体部	中世?	瓦質
146	土鍋	在地	007号	-	3/4残存	?	
147	土鍋	在地	033号	-	完全	?	



第20図 出土遺物 (5)



第21図 出土遺物 (6)

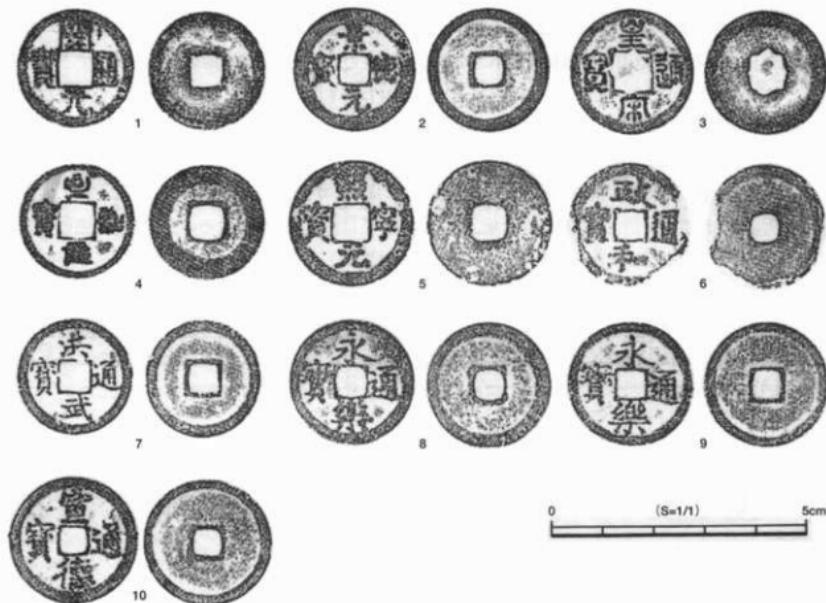
第7表 石製品計測表

No.	器種	石材	出土位置	時期	最大長(cm)	最大幅(cm)	重量(g)	備考
148	宝鏡印塔	安山岩	006号	中世	12.80	9.18	1,143	
149	宝鏡印塔	安山岩	034号	中世	19.20	19.60	9,651	
150	石塔?	砂岩	034号	—	21.50	18.40	11,881	
151	石塔?	砂岩	019号	中世	9.19	6.69	260	
152	石塔?	砂岩	034号	中世	9.90	12.10	1,570	被熱?
153	板碑	雲母片岩	006号	中世	12.05	7.12	248	
154	板碑	雲母片岩	030号	中世	11.58	9.73	186	
155	板碑	雲母片岩	030号	中世	6.70	4.80	39	
156	板碑	雲母片岩	029号	中世	6.69	6.55	45	
157	板碑	雲母片岩	027号	中世	15.38	7.84	324	
158	板碑	雲母片岩	030号	中世	9.43	4.74	128	
159	板碑	雲母片岩	030号	中世	7.96	7.24	63	
160	板碑	雲母片岩	029号	中世	5.06	4.55	33	
161	板碑	雲母片岩	029号	中世	12.13	5.47	116	
162	板碑	雲母片岩	017号	中世	4.83	4.01	23	
163	板碑	雲母片岩	006号	中世	4.00	4.55	30	
164	砾石	砾灰岩	030号	中世?	11.89	4.18	117	細い溝有り
165	砾石	砾灰岩	030号	中世?	10.62	4.23	141	
166	砾石	砾灰岩	030号	中世?	8.94	3.73	68	
167	砾石	砾灰岩	030号	中世?	10.70	4.65	192	
168	砾石	砾灰岩	002号	中世?	10.48	3.14	89	
169	砾石	砾灰岩	030号	中世?	8.98	3.83	84	
170	砾石	砾灰岩	029号	—	7.35	2.86	75	
171	砾石	砾灰岩	030号	近世?	9.22	2.76	64	
172	砾石	砾灰岩	030号	近世?	5.05	2.94	61	
173	砾石	砾灰岩	006号	—	6.91	4.26	75	
174	砾石	砾灰岩	018号	—	3.04	1.70	5	
175	砾石	砾灰岩	002号	—	3.06	2.04	20	
176	砾石	砾灰岩	030号	—	2.52	3.02	14	
177	砾石	砾灰岩	030号	—	4.82	2.75	14	
178	砾石	砾灰岩	028号	—	2.05	2.81	12	
179	砾石	砾灰岩	G区	—	6.45	2.97	42	
180	砾石	砂岩	030号	—	7.18	6.54	111	
181	砾石	砂岩	029号	—	8.05	6.65	165	
182	砾石	砂岩	034号	—	9.61	5.42	299	
183	砾石	砂岩	034号	—	8.39	4.32	132	
184	砾石	砾灰岩	034号	—	10.14	3.01	102	
185	砾石?	砂岩	029号	—	14.83	7.88	569	
186	砾石?	泥岩	030号	—	12.02	6.54	405	
187	砾石?	砂岩	034号	—	7.93	7.44	440	
188	砾石	砂岩	030号	中世?	6.35	6.47	235	
189	砾石	砂岩	030号	中世?	9.90	6.80	351	
190	砾石	砂岩	G区	中世?	7.45	7.28	183	
191	砾石?	安山岩	034号	中世?	17.30	13.40	3,351	
192	茶臼	安山岩	030号	中世	21.00	7.59	421	下臼
193	茶臼	砂岩	030号	中世	7.90	10.81	485	下臼
194	茶臼	砂岩	030号	中世	7.52	6.95	199	下臼,被熱?
195	茶臼	砂岩	030号	中世	7.88	7.69	266	下臼
196	茶臼	砂岩	029号	中世	7.33	9.45	285	下臼
197	茶臼	砂岩	029号	中世	7.45	8.76	222	下臼
198	茶臼	砂岩	030号	中世	6.45	4.90	131	下臼
199	茶臼	砂岩	030号	中世	7.14	5.14	100	下臼
200	茶臼	砂岩	029号	中世	5.37	5.34	112	下臼
201	茶臼	砂岩	029号	中世	5.17	4.56	93	下臼
202	茶臼	砂岩	G区	中世	9.88	5.08	174	下臼
203	茶臼?	砂岩	030号	—	6.32	5.00	208	
204	鬚石	030号	—	—	5.75	4.06	17	
205	鬚石	030号	—	—	5.49	5.21	16	
206	鬚石	017号	—	—	5.78	4.53	28	
207	鬚石	表探	—	—	5.64	5.25	13	

金属製品・錢貨等 (第21・22図, 第8表, 図版18・23)

208~210は鉄釘である。重量は208が26 g, 209が12 g, 210が4 gである。211は楕形鍛治滓の破片と考えられる。重量は89 gである。212はキセルの吸い口である。213は刀子である。

錢貨は唐~明錢が10点出土した。3の皇宋通寶の孔は星形を呈している。計測値等は表を参照していただきたい。



第22図 錢 貨

第8表 錢貨計測表

No.	錢貨名	王朝名	初鑄年	計測値(単位:mm)					重量(g)	出土位置
				縁外径	縁内径	郭外径	郭内径	縁厚		
1	開元通寶	唐	621	23.5	18.9	7.6	6.3	0.9	2.60	035号
2	景德元寶	北宋	1004	24.6	18.4	6.9	5.5	1.1	3.84	004号
3	皇宋通寶	北宋	1038	24.7	19.8	8.8	7.4	0.8	2.60	029号
4	至和元寶	北宋	1054	22.8	20.0	7.7	6.9	0.9	2.43	019号
5	熙寧通寶	北宋	1068	25.0	19.2	8.3	6.8	1.0	2.48	030号
6	政和通寶	北宋	1111	24.4	19.7	6.9	5.3	1.1	2.27	028号
7	洪武通寶	明	1368	23.3	19.0	7.2	5.8	1.4	2.44	017号
8	永樂通寶	明	1408	24.9	20.4	7.0	6.0	0.7	2.43	035号
9	永樂通寶	明	1408	24.8	20.9	6.3	5.4	1.4	3.05	G区
10	宣德通寶	明	1433	25.4	21.0	6.2	5.2	1.2	3.33	004号

第4章 新島旧三島本郷遺跡

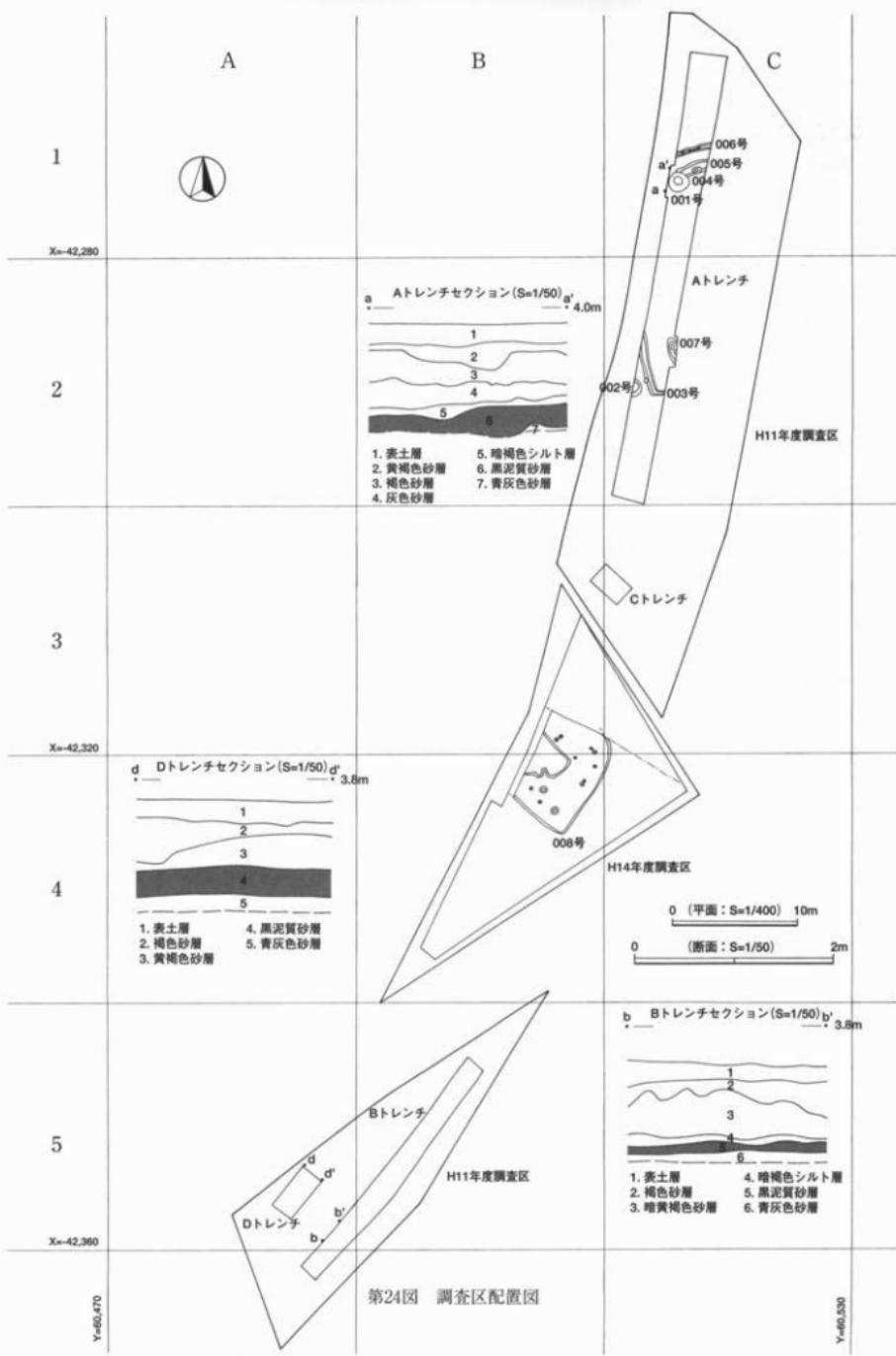
第1節 概要（第23図）

調査区は北区・中央区・南区の3地点に分かれ、北区と南区は平成11年度、中央区は平成14年度に調査を行った。中央区はトレンチ確認ではなく、当初から全面の表土を剥がして調査を行った。調査区の標高は3.7m前後である。現地表面で摩耗した小さな土器片（縄文土器、土師器、陶磁器）を採取できた。表土層は畑の耕作土で、比較的しまっているが、その下の層は基本的に砂層のため、コンバネや単管パイプを使用して土留めを行い、湧水対策として、調査区縁辺には排水用の溝を掘削した。

土層は、第1層が現表土層で、客土である。出土した縄文土器は客土に混入した可能性も考えられる。その下にある砂層（黄褐色・褐色・灰色）も比較的新しい時期の耕作土と考えられる。その下位に堆積するシルト層や黒泥質砂層が古代以降の包含層、または耕作土にあたり、今回はその直下の青灰色砂層を遺構確認面とした。中央区は南西から北東方向に現代耕作によるトレンチャーハーの跡が部分的に最下層の砂層にも及ぶ。遺構以外の部分で出土した遺物はトレンチャーハー部分からのみで、もともとは遺構に伴っていたものと考えられる。遺構はAトレンチから土坑と溝、中央区から竪穴状遺構が検出された。遺構、遺物とも僅少で、遺跡の性格を決めるには難しい。遺構が検出されなかった部分から出土した遺物はほとんどが、近世以降の陶磁器などであった。逆に遺構周辺からは古代の土師器片が比較的多く出土した。



第23図 周辺地形図 (S=1/5,000)



第2節 遺構（第24・25図、図版9～11）

001号（土坑）1Cグリッドで検出された。平面形は直径0.7mのいびつな円形で、深さは確認面から0.25mである。側面には段を有する。覆土中層から須恵器杯・土師器杯が出土した。005号と切り合うが新旧関係は判然としない。

002号（土坑）2Cグリッドで検出された。完掘していないが、平面形は直径1.1mの円形と考えられる。深さは確認面から0.3mである。遺物は出土しなかった。

003号（溝）2Cグリッドで検出された。幅0.7m、深さ0.2mである。直角に屈曲し、軸が北側で検出されている溝（005号・006号）とあうため、方形に区画する溝の一部の可能性も考えられる。

004号（土坑）1Cグリッドで検出された。平面形は長軸0.7m、短軸0.55mの梢円形である。深さは確認面から0.15mである。掘り込みは浅く、005号の内部に位置するため、溝に伴うピットの可能性があるが、新旧関係は不明である。遺物は出土していない。

005号（溝）1Cグリッドで検出された。ほぼ東西方向にのびる。幅0.9m、深さが0.1mと小規模である。遺物は出土していない。

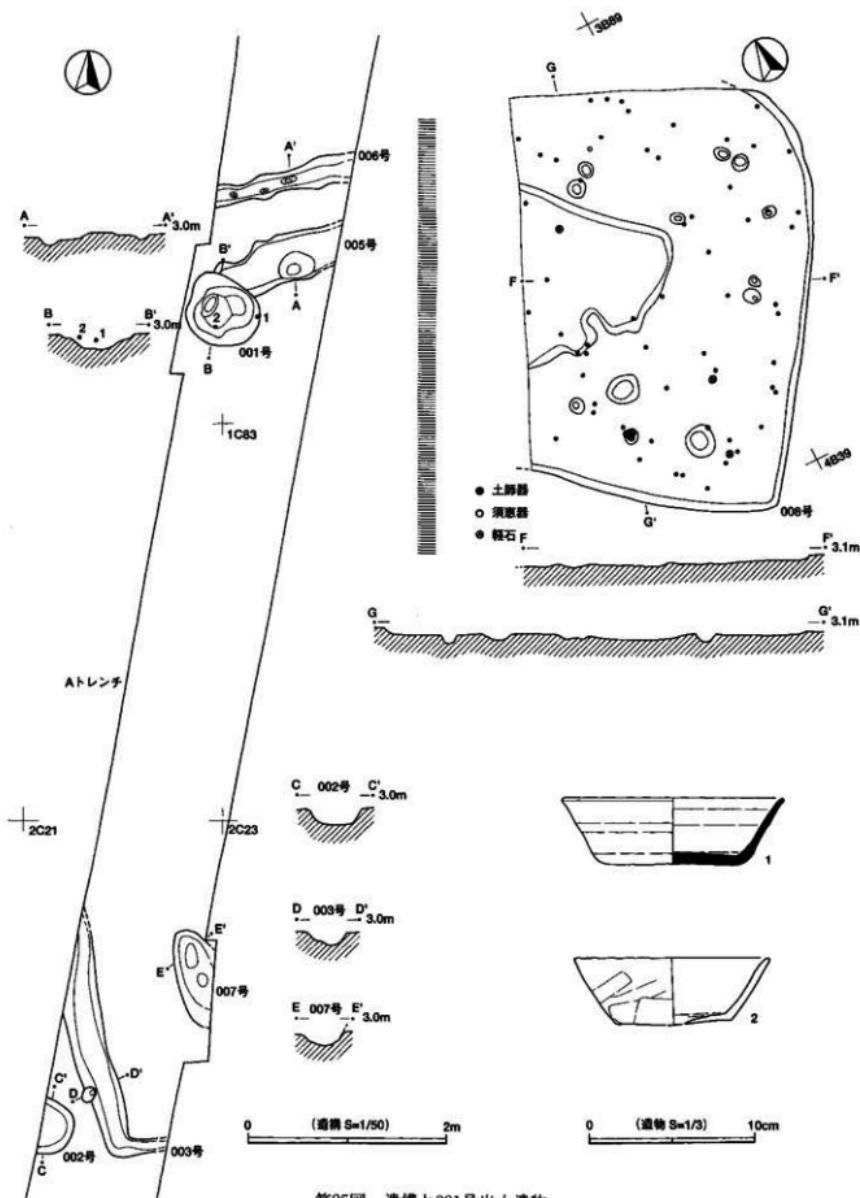
006号（溝）1Cグリッドで検出された。ほぼ東西方向にのびる。005号と近接し、平行する。幅0.4m、深さが0.1mと小規模で、底面に浅いピットが3か所検出された。遺物は出土していない。

007号（土坑）2Cグリッドで検出された。完掘していないため平面形は不明だが、細長い梢円形と考えられる。短軸幅は0.8mほどと考えられる。深さは確認面から0.2mである。遺物は出土しなかった。

008号（堅穴状遺構）3B・4Bグリッドに位置する。擾乱と調査区の関係で完掘できていないが、平面形は8.5m×5.9m程度の隅丸長方形と考えられる。覆土は基本的に黒泥質砂層である。主軸は、N-32°-Eである。確認面からの深さは0.1m前後で、床面は小さく波打つ。床面には深さが4～16cm前後のピットが不規則に配置される。ピットの掘り方は碗状で、覆土は本体と同じ砂質の黒泥質砂層である。西側に不整形だが、約7cm一段低くなっている部分がある。低い部分の床面は凸凹があり、ピットなどは検出できなかった。その覆土は基本的に黒泥質砂層で、床面直上には、黄褐色砂層の一部が渦状に巻き上がってみられた。遺物は、ほとんど散在した状況で出土しており、小片で実測が行えるものはない。主な内訳は、土師器片52点、須恵器片2点、軽石6点である。ほとんどが古代土師器片で、回転糸切り痕をもつ底部破片もみられた。主な遺物からみて、遺構の時期は平安時代初頭と考えられる。

第3節 遺物（第25図、図版23）

実測個体は001号の土坑から出土した2点のみである。この他にも、遺物は出土したが、摩滅した細片で、実測を行うことができなかった。1は須恵器杯である。約1/2が残存し、色調は暗灰色である。推定口径13.0cm、器高4.1cm、底径7.6cmである。胎土には微細な白色粒子が含まれる。底面とその周囲にはヘラケズリ調整、底部切り離しの手法は不明である。2は土師器杯である。約3/4が残存し、色調は暗褐色である。口径11.6cm、器高4.1cm、底径6.8cmである。胎土には白色砂粒が比較的多く含まれ、須恵器の胎土に近似する。底面と体部下半はヘラケズリ調整が施される。底部の厚みが中心に向かうほど極めて薄くなる。



第25図 遺構と001号出土遺物

第5章 まとめ

3遺跡とも調査区が小規模で、遺跡の性格を断定するには難しい。しかし、調査例が少ない九十九里平野の砂堤帯における発掘調査を行えたことは貴重な成果である。出土遺物の時期からみて、第II砂堤帯中央部は奈良時代以降に安定して人の活動が行われるようになったと考えられる。今後は、すべての遺跡にみられる混じりのない砂層（遺構確認面）の上に堆積する黒泥質砂層の由来や時期を確定していくことが重要となるであろう。ここでは遺跡ごとに明らかになったことを述べ、まとめに代えることにする。

大宮神社低地遺跡

数年かけて断続的に調査を行った。路線巾という制約上、遺跡の性格を確定するまでには至らなかった。遺構は溝や土坑が主体で、単独で機能したものとは考えられない。遺物は少数ながら、奈良・平安時代以降のものが出土した。縦横に走る小規模な溝は近世の畑の畝状遺構や区画溝と考えられる。不整形な土坑も耕作に関連する新しい痕跡の可能性が考えられる。しかし、遺物に近世以前の破片も出土しており、古い時期の遺構も混じっている可能性も否定できない。この種の遺構の性格や時期を平面的に判断することは難しく、今後とも土層との綿密な対応で調査を進め、覆土の時期別のパターンを決めながら調査を行っていくべきであろう。溝・土坑が多い点で同砂堤帯上の成東町小泉遺跡・八日市場市平木遺跡⁽¹⁾との類似性が指摘できる。

小松遺跡

遺構は完掘できなかったものが多く、遺跡の性格の全体像はつかみきれないが、遺物は比較的豊富に出土した。特に、中・近世の陶磁器は多くの産地から供給されており、多様な器種が出土し、当時の生活を復元するのに貴重な資料をもたらしたといえる。遺構は、土坑と溝が主体であった。土坑から北宋錢や板碑、石塔、骨片、炭化物などが出土していることから、A区・G区周辺が中世に墓域として利用されていた可能性が高い。また、遺構が少なく、溝のみ検出されたB区・C区周辺は、生産域として捉えられるかもしれないが、擾乱も多く、平面的には断定できない。いずれにせよ、遺物から遺跡の年代を考えると当地域では中世前半から近世にかけて継続的に人が生活を営んでいたと考えられる。

新島旧三島本郷遺跡

奈良・平安時代の遺構（竪穴状遺構・土坑）と時期不明の溝が検出された。竪穴状遺構は成東町小泉遺跡⁽²⁾に類例がある。特に小泉遺跡2号竪穴状遺構と本遺跡008号は、ピットが不規則に存在している点、掘り込みが浅く、床面がやや波打ち、硬化面もみられない点が共通する。出土遺物の時期も平安時代初頭で、ほぼ一致している。これらの共通性は本砂堤帯におけるこの時期の遺構の特徴を示すものかもしれない。ピットの貧弱さや床面の性状から定住性の建物ではなく、生産域に伴う納屋的な建物を想定することが可能であろう。

注（1）平山誠一 1999 「小泉遺跡B地区」 （財）山武郡市文化財センター

小久賀隆史 1988 「八日市場市平木遺跡」 （財）千葉県文化財センター

（2）渡辺修司 1996 「小泉遺跡（御用地3257地点）」 （財）山武郡市文化財センター

写 真 図 版

新島旧三島本郷遺跡

大宮神社低地遺跡

小公遺跡

道路計測航空写真 (S=1/20,000) 京葉測量S44

図版2 大宮神社低地遺跡 遺構（1）



A区 全景



A区 A001・A002号



B区 調査前



B区 001・002・003号



B区 004号



B区 005号



B区-③ 全景



B区 009・048号



B区 010・011・012号



B区-④ 全景



D区-① 全景



D区 050・051・052号



E区-① 024号



E区-① 026・027・028号



E区-② 全景



E区-③ 確認状況

図版4 大宮神社低地遺跡 遺構（3）



E区-③ 044号



E区-④ 全景



E区-⑥ 全景



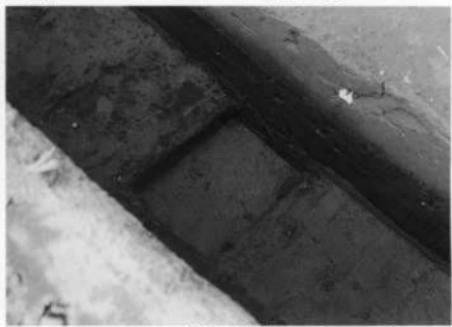
E区-⑦ 全景



F区 全景



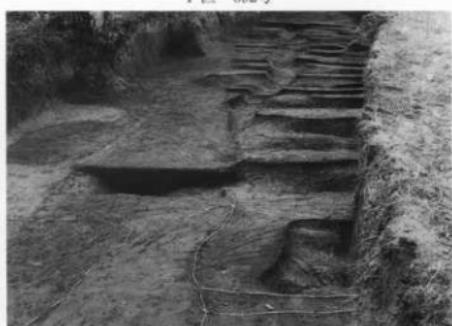
E区-⑤ 全景



F区 092号



H区 確認状況



H区 全景



A区 全景



A区 001号



A区 003号



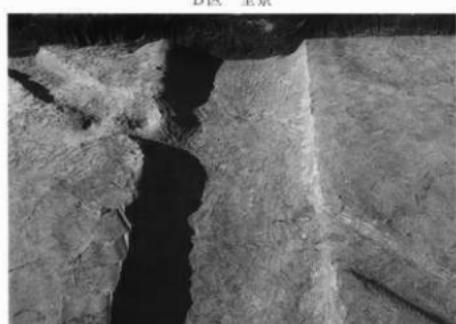
A区 002・004号



B区 全景



B区北側 全景

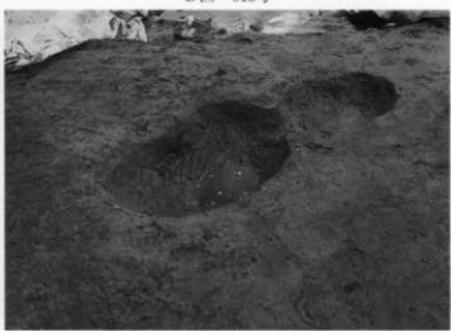
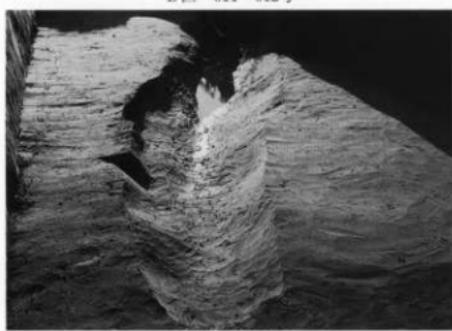


B区 007・010号



B区 008・009・010号

图版6 小松遣迹 遗構（2）





D区 018号



E区 全景



E区 セクション



E区 021・022・023号



E区 026号



E区 028号



F区 全景



F区 セクション

図版8 小松遺跡 遺構（4）



G区 全景



G区 029号



G区 030号セクション



G区 030号



G区 031号



G区 032号



G区 033号



G区 034号



調査区遠景（平成11年度）



調査風景



調査風景



A トレンチ



B トレンチ



C トレンチ



A トレンチセクション



001号

図版10 新島旧三島本郷遺跡 遺構（2）



001号



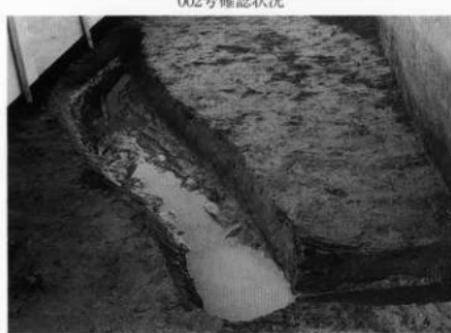
001号遺物出土状況



002号確認状況



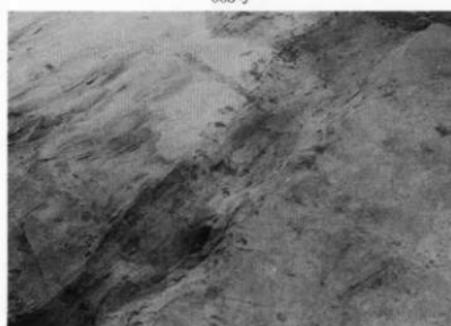
002号



003号



005号



006号



007号



調査区遠景（平成14年度）



調査区遠景（平成14年度）



調査風景



008号確認状況



008号セクション



008号遺物出土状況

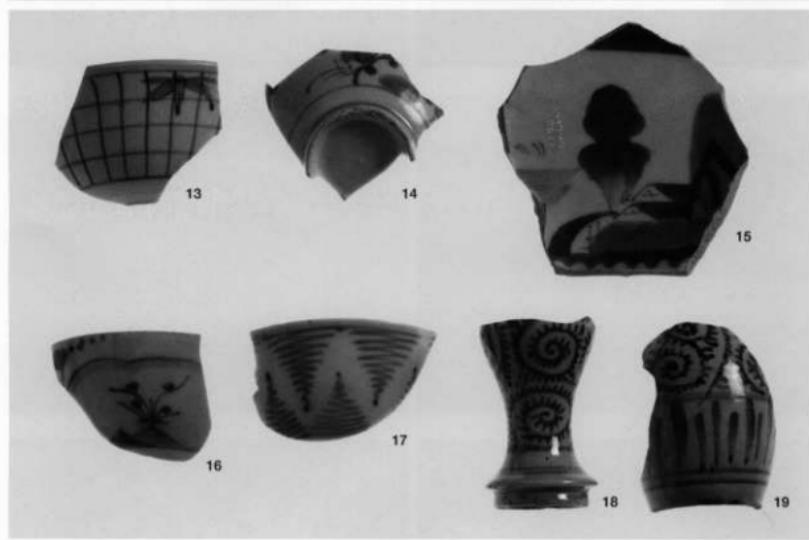
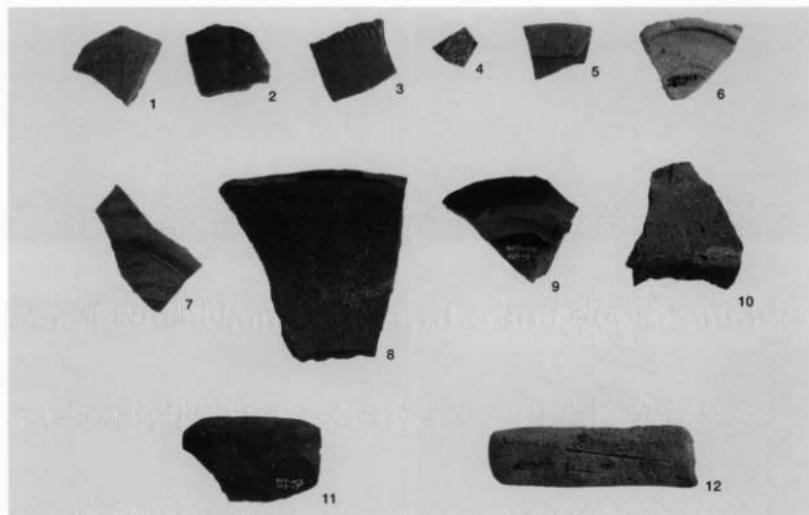


008号完掘状況

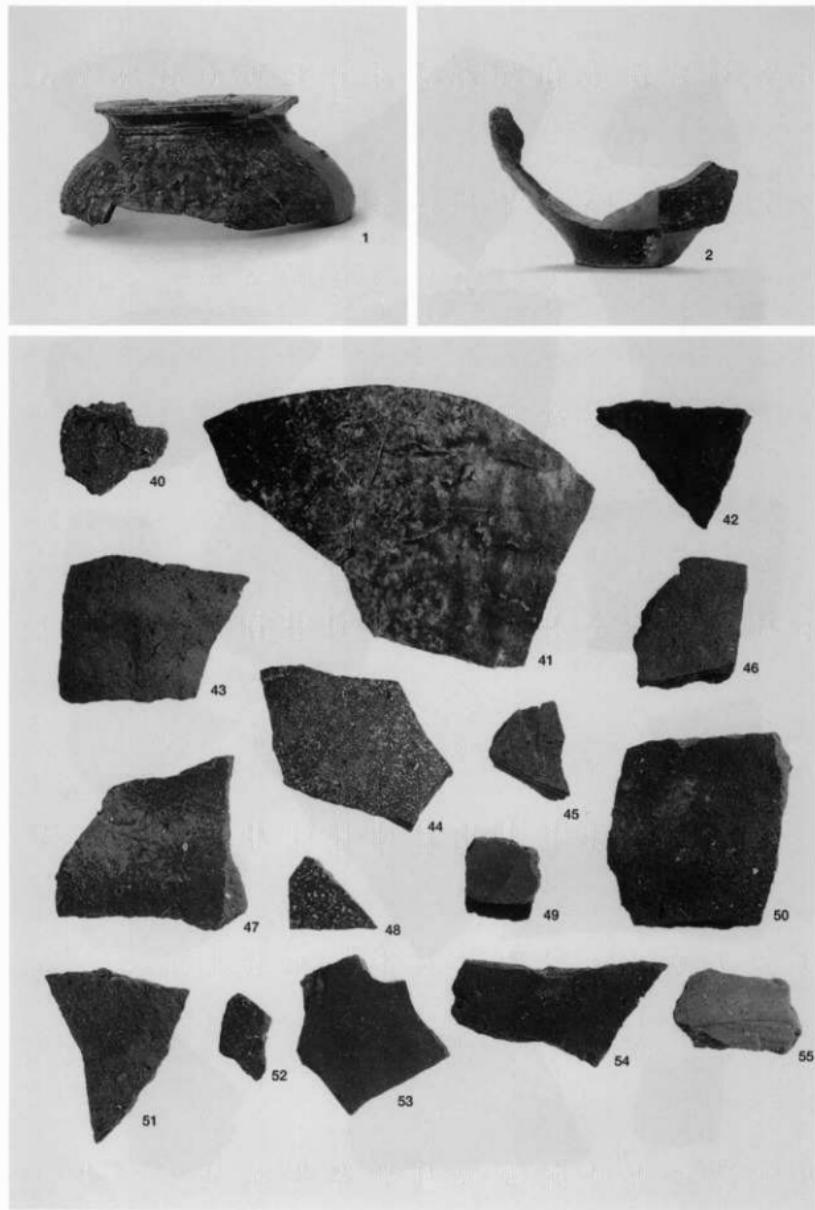


調査区空撮

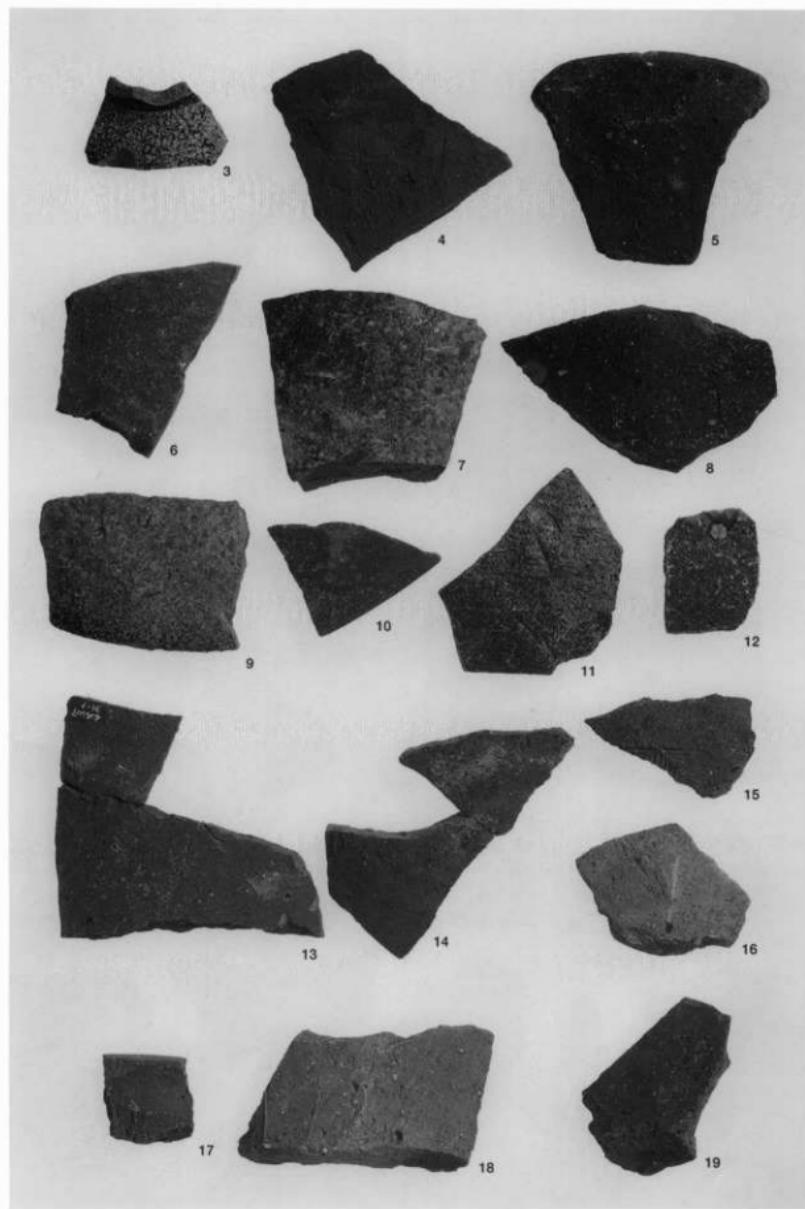
大宮神社低地遺跡 遺物



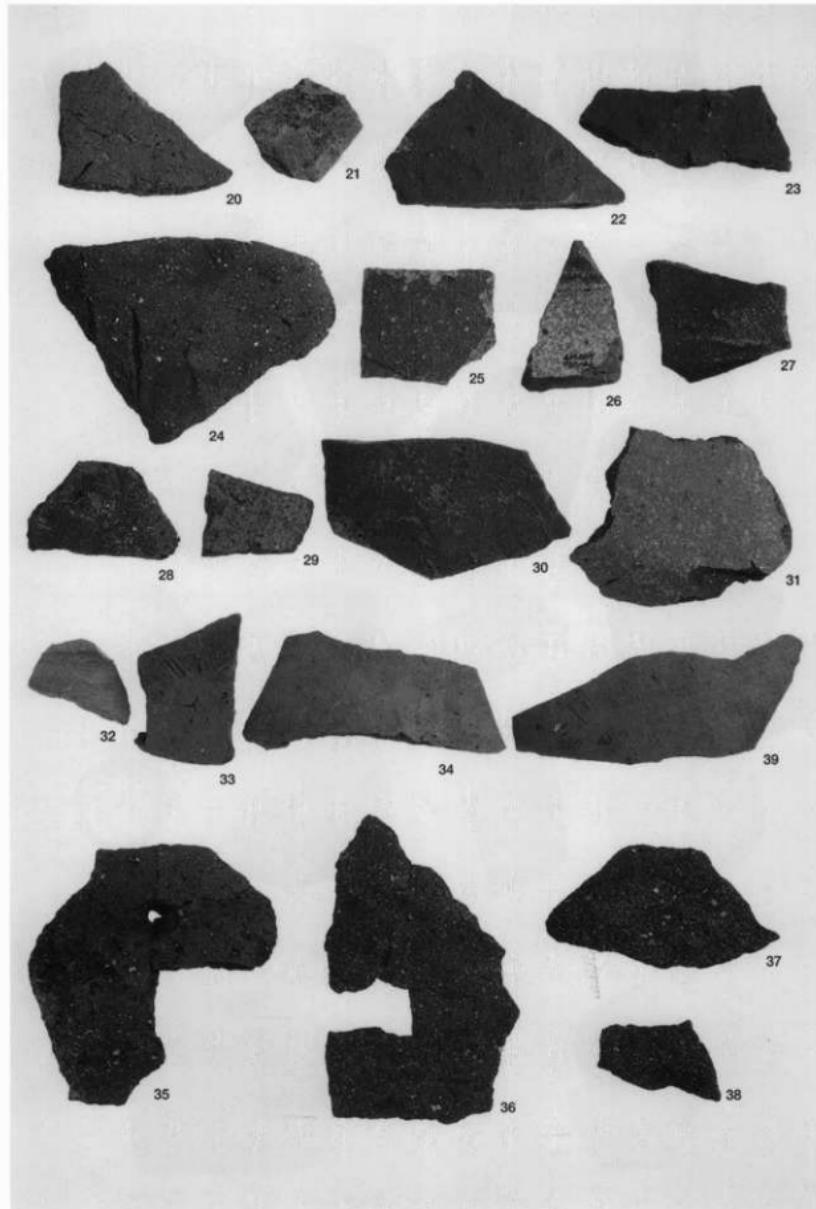
小松遺跡 遺物（1）



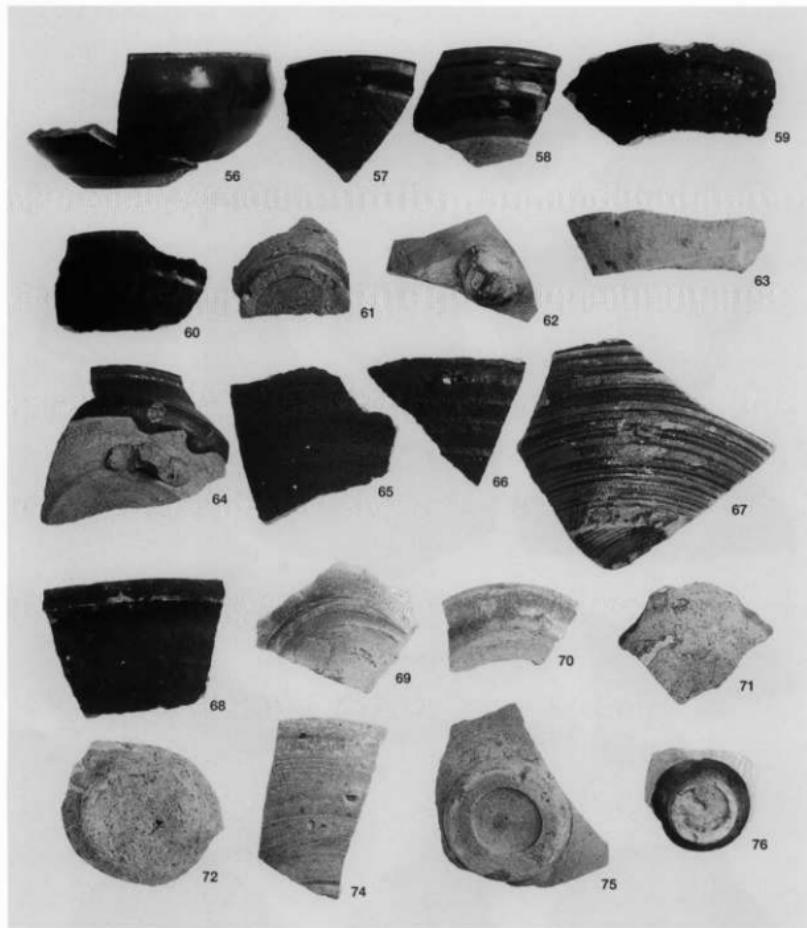
小松遺跡 遺物（2）



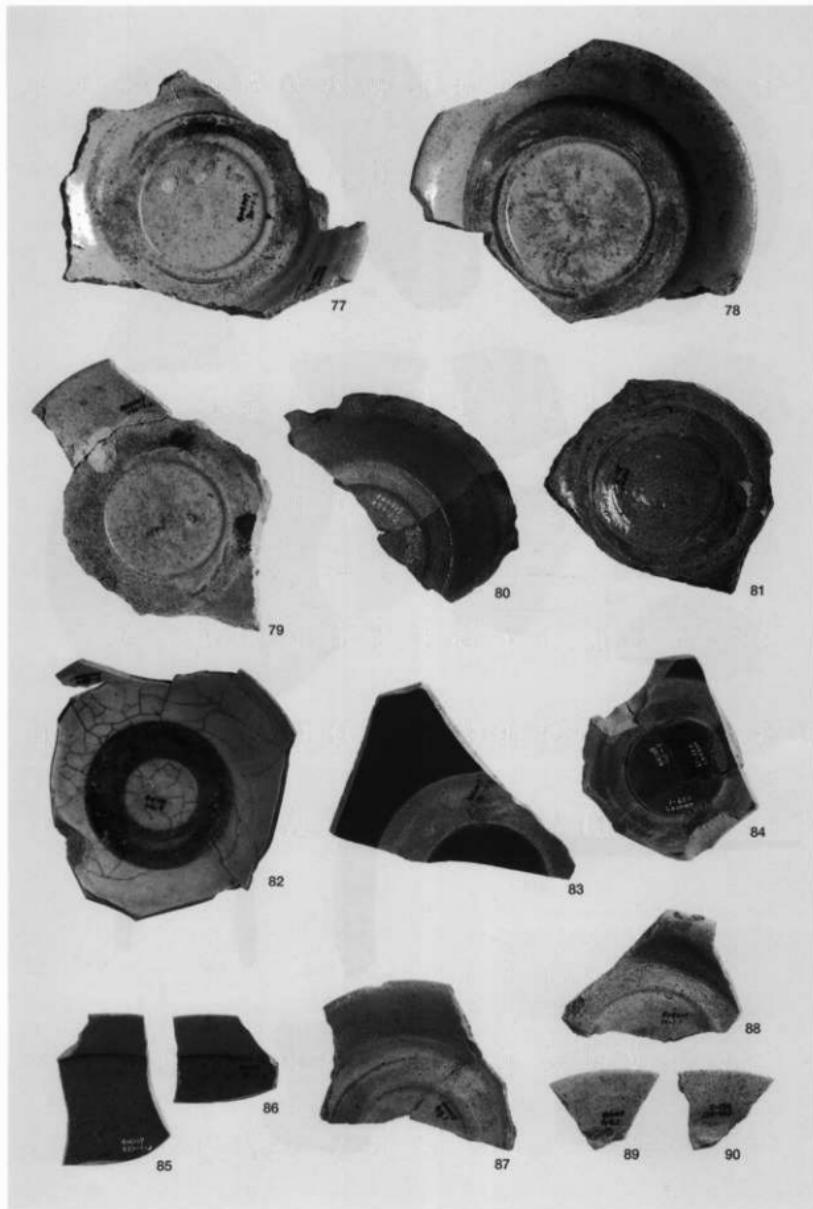
小松遺跡 遺物 (3)



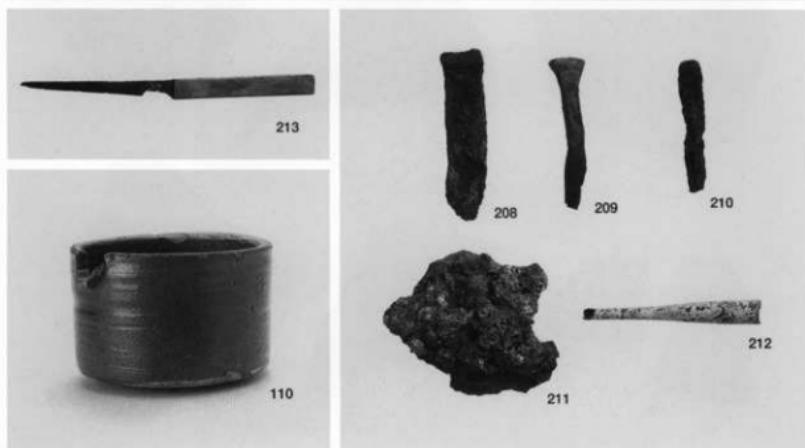
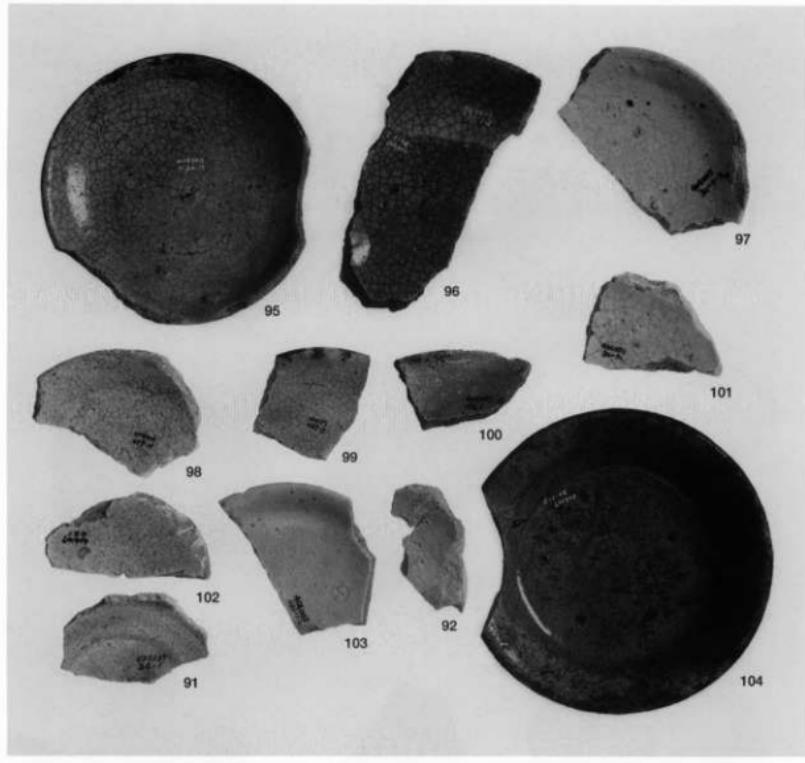
小松遺跡 遺物 (4)



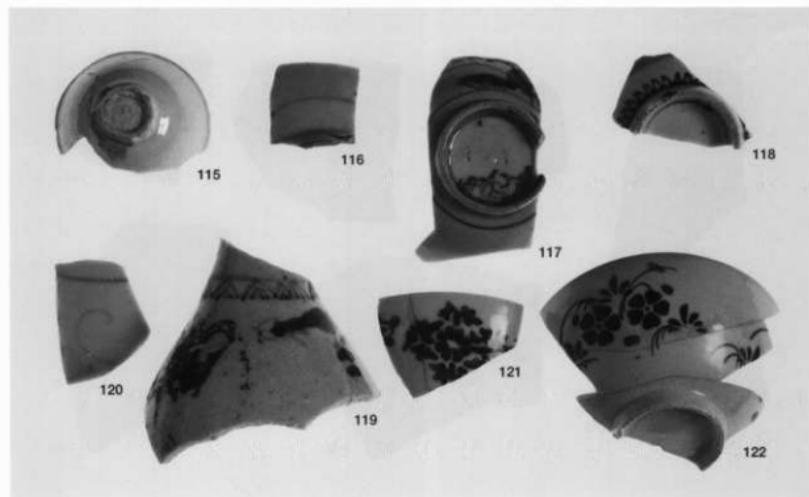
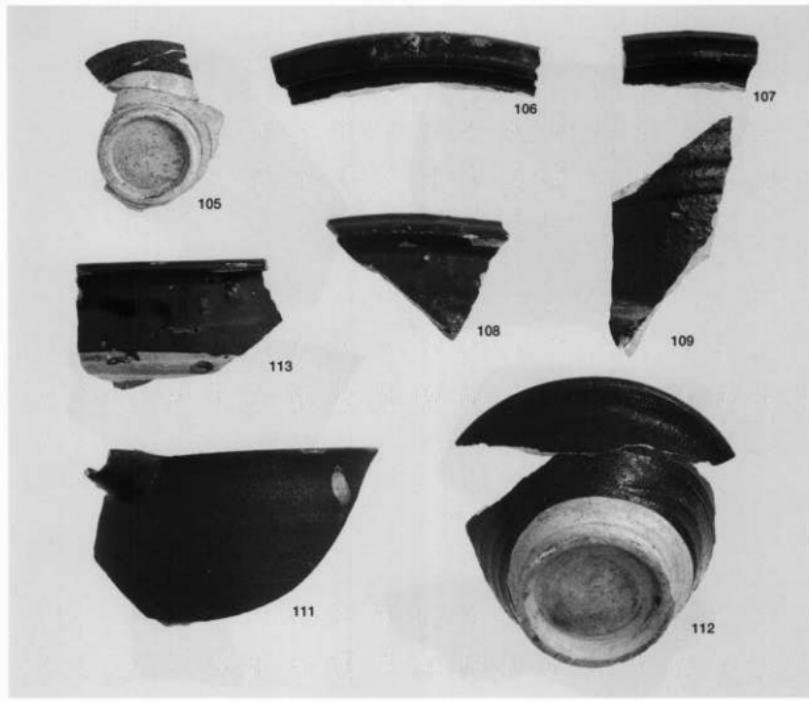
小松遺跡 遺物 (5)



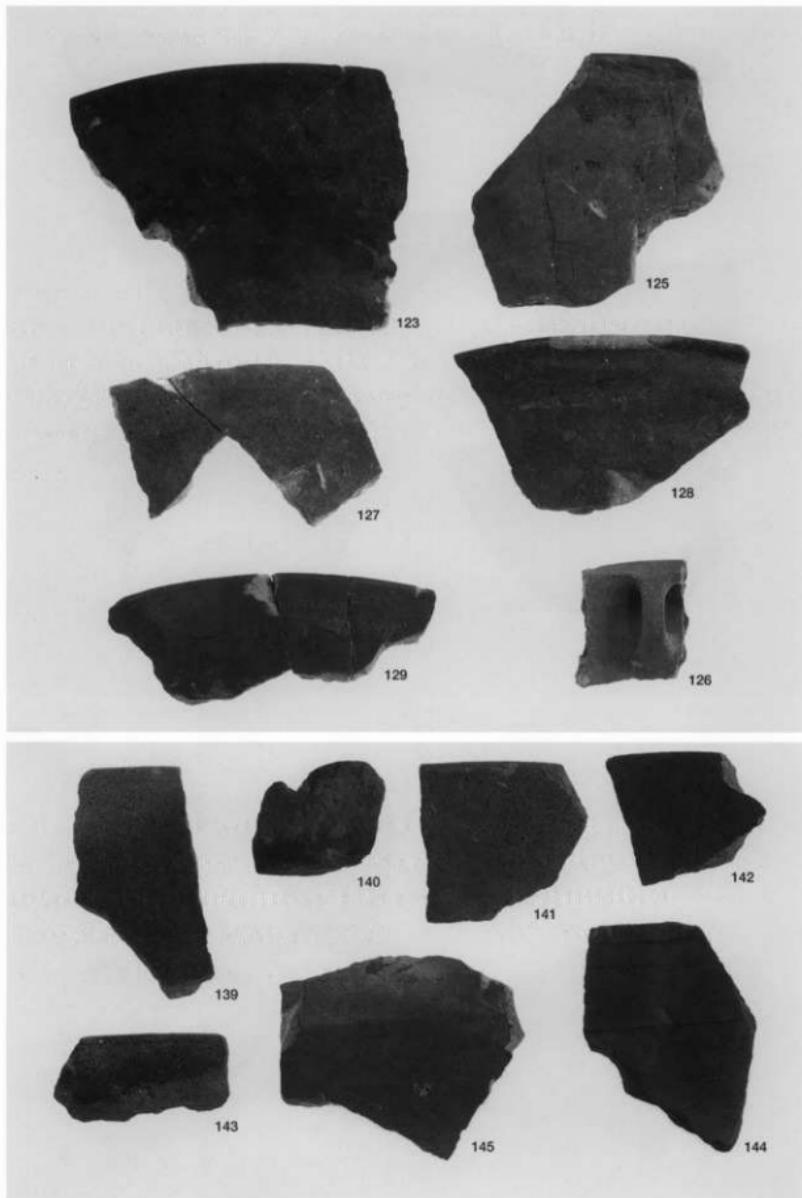
小松遺跡 遺物 (6)



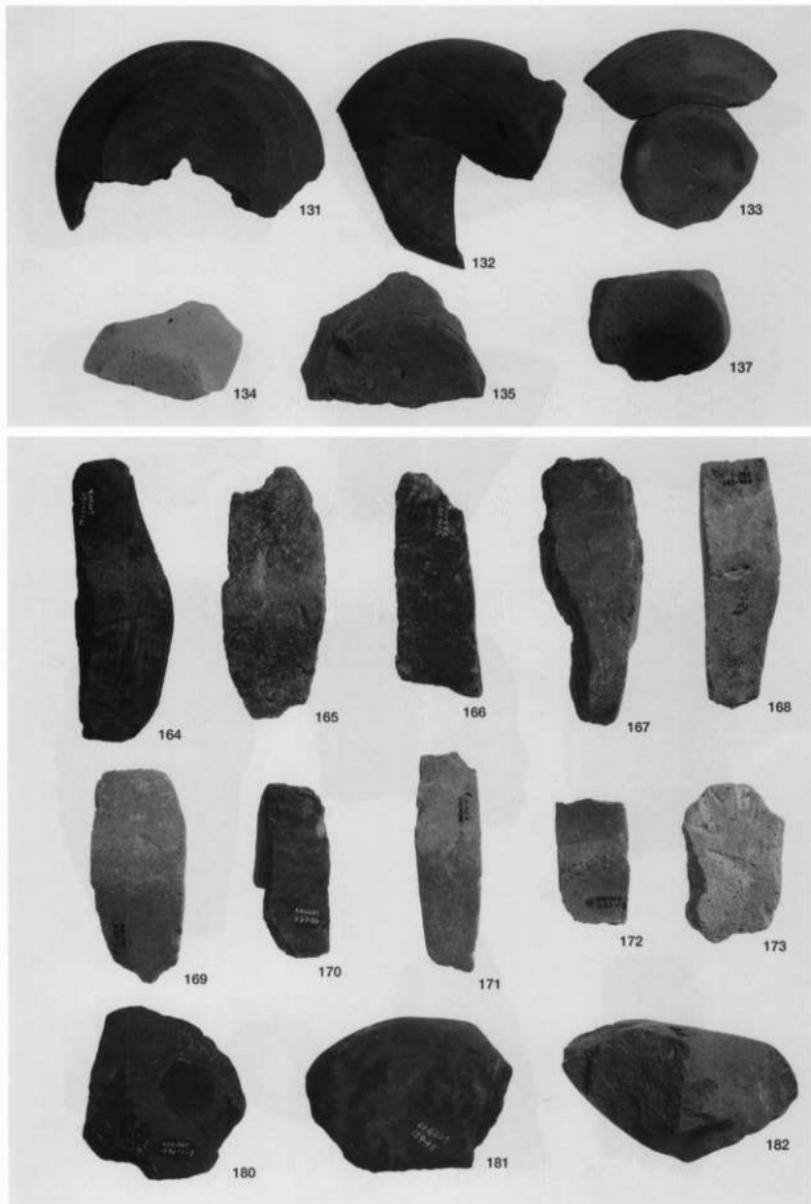
小松遺跡 遺物（7）



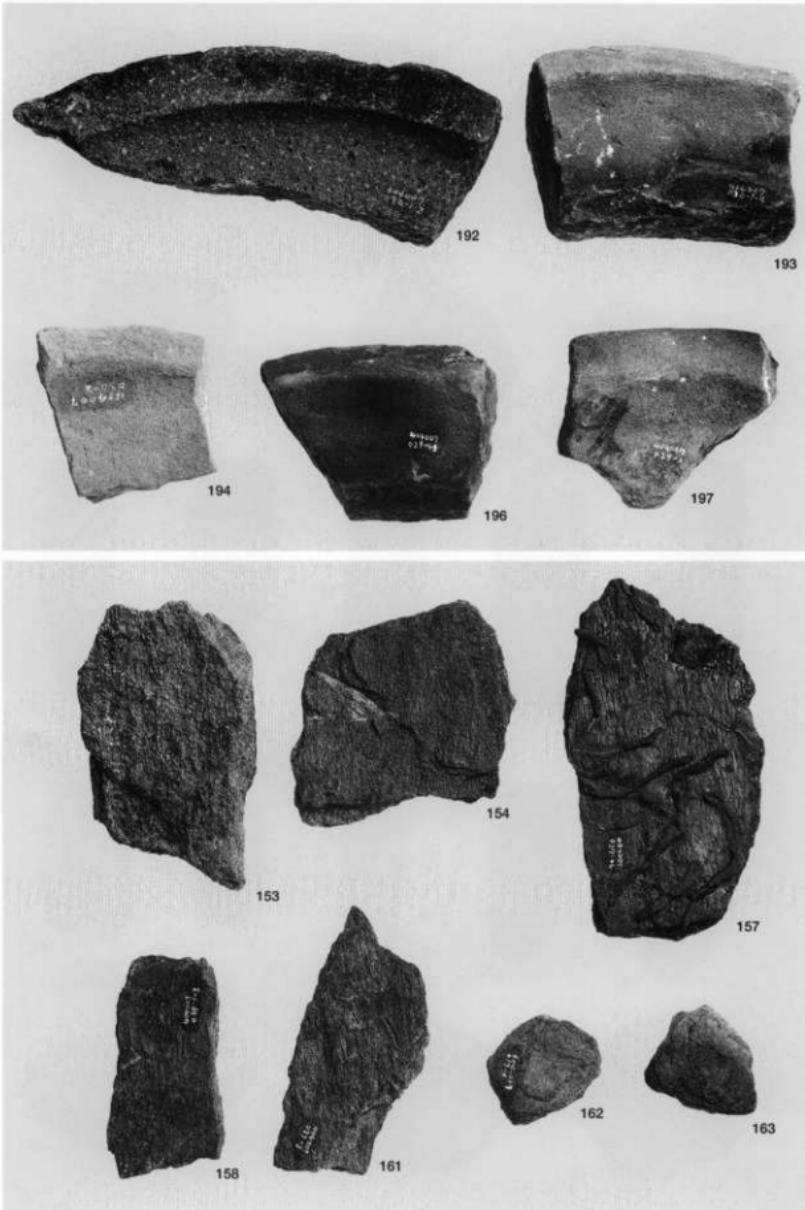
小松遺跡 遺物 (8)



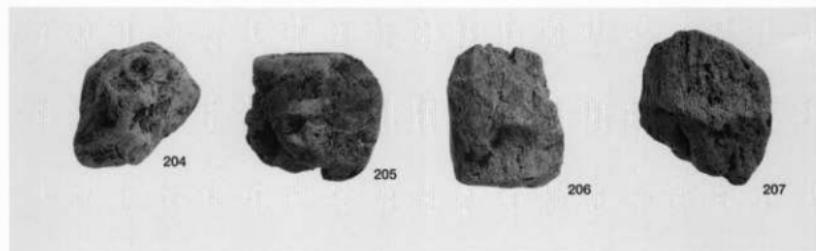
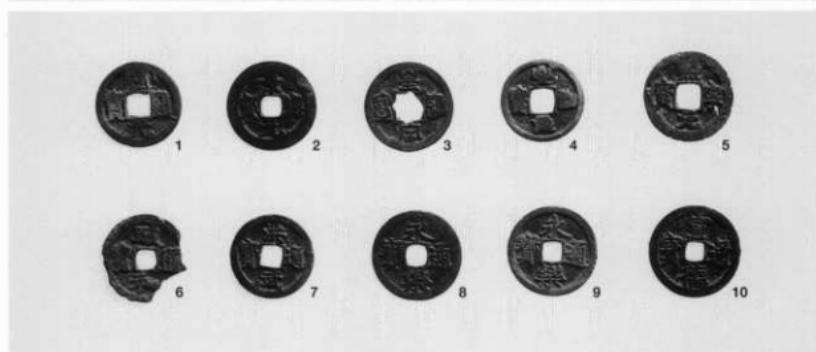
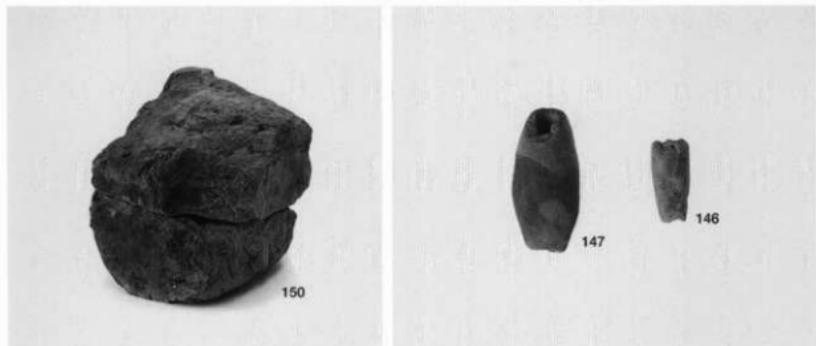
小松遺跡 遺物 (9)



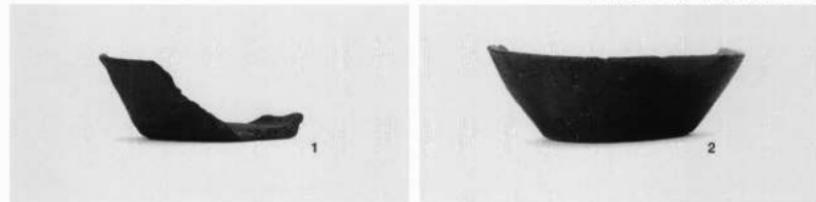
小松遺跡 遺物 (10)



小松遺跡 遺物 (11)



新島旧三島本郷遺跡 遺物



報告書抄録

ふりがな	こういきえいのうだんちのうどうせいびじょうくじゅうくちくまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ						
書名	広域宮農田地典道整備事業九十九里地区埋蔵文化財調査報告書						
副書名	松尾町大宮神社低地遺跡・成東町小松遺跡・横芝町新島田三島本郷遺跡						
卷次							
シリーズ名	財団法人千葉県文化財センター調査報告						
シリーズ番号	第475集						
編著者名	黒沢 崇 大堀一実						
編集機関	財団法人千葉県文化財センター						
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL.043-422-8811						
発行年月日	西暦 2004年 3月 25日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
大宮神社低地	千葉県山武郡松尾町 折戸字小町751ほか	12407 013	35度 35分 46秒	140度 28分 28秒	19970407~19970418 19971001~19971128 19991101~19991115 20011203~20011220	100m ² (確認) 1,360m ² 23m ² (確認) 620m ² (確認)	
小松	千葉県山武郡成東町 小松字南台之下79-1 ほか	12404 007	35度 35分 27秒	140度 28分 4秒	19971125~19980130 19981102~19981130	215m ² 80m ²	広域宮農田地典道整備事業に伴う事前調査
新島田三島本郷	千葉県山武郡成東町 新島字上人塚5178 ほか	12408 012 013	35度 37分 1秒	140度 30分 5秒	19991201~19991214 20030203~20030214	66m ² (確認) 285m ²	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
大宮神社低地	包蔵地	奈良・平安中・近世	土坑 ピット群 溝 耕作跡	土器群・須恵器・陶磁器・ 鐵貨・延石・燧石			
小松	包蔵地	中・近世	土坑・土坑羣 ピット群 溝 耕作跡	陶磁器・カワラケ・内耳土器・ 鐵貨・石塔・板磚・紙石・燧石			九十九里平野における数少ない開墾地で、中・近世の陶磁器・石塔・板磚破片が狭い開発区ながら多く出土した。
新島田三島本郷	包蔵地	奈良・平安中・近世	竪穴状造構 土坑 溝	土器群・須恵器			

千葉県文化財センター調査報告第475集

広域営農団地農道整備事業九十九里地区埋蔵文化財調査報告書
—松尾町大宮神社低地遺跡・成東町小松遺跡・横芝町新島旧三島本郷遺跡—

平成16年3月25日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 千葉県農林水産部 東金土地改良事務所

東金市東新宿17-6

財団法人 千葉県文化財センター

四街道市鹿渡809番地2

印 刷 株式会社 エリート印刷

成田市並木町44-20
